

## 中学校教科用図書 調査研究結果報告書

区分	種 目	報告書ページ
1	国 語	1 ~ 5
2	書 写	6 ~ 10
3	社会（地理的分野）	11 ~ 15
4	社会（歴史的分野）	16 ~ 25
5	社会（公民的分野）	26 ~ 32
6	地 図	33 ~ 35
7	数 学	36 ~ 43
8	理 科	44 ~ 49
9	音 楽（一般）	50 ~ 52
10	音 楽（器楽合奏）	53 ~ 55
11	美 術	56 ~ 59
12	保 健 体 育	60 ~ 64
13	技術・家庭（技術分野）	65 ~ 68
14	技術・家庭（家庭分野）	69 ~ 72
15	外 国 語	73 ~ 79
16	道 徳	80 ~ 87

令和6年度

松塩筑安曇地区教科用図書採択研究協議会



中学校教科用図書 調査研究結果報告書

国 語

東 京 書 籍

三 省 堂

教 育 出 版

光 村 図 書

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	東京書籍（新編 新しい国語）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉を適切に使うための「知識及び技能」が、各単元で明確に示されている。</li> <li>・ 思いや考えを伝え合うための「思考力、判断力、表現力等」を育成することができるように、教材が配列されている。</li> <li>・ 言葉や言語文化の価値を認識し、国語の能力の向上を図るといった「学びに向かう力、人間性等」を涵養できるように、言語活動が位置付けられており、言葉による見方・考え方を働かせながら、主体的に学びに向かう工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本編の内容が精選されており、学年が進み、単元を重ねていく中で、学習が発展的になるよう、配慮されている。</li> <li>(2) 登場するキャラクターの描かれ方や作品の著者の選定に関して、多様性への配慮がされている。</li> <li>(3) 問題解決的な言語活動が多く設けられ、生徒同士が助言したり、議論したりして考えを深め、互いの考えを生かして結論をまとめるなど、協働的に学びを充実させられるよう、工夫がなされている。</li> <li>(4) 特別な明朝体を使用し、脚注欄などの小さい文字の振り仮名には、ゴシック体を使用するなど、読みやすいように配慮されている。</li> <li>(5) 未習熟な漢字、小学校で学習していない漢字にはすべて教材の初出個所にふりがなをつけており、外国籍等の漢字を不得意とする生徒への配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 中学校3年間を通した系統性・段階性をもって目標が立てられ、設定された「言葉の力」に適した教材や言語活動が位置付けている。</li> <li>(2) 「読むこと」教材で習得したことを「話すこと・聞くこと」・「書くこと」教材で活用・定着できるように、領域間の関連が図られており、さらに3年間を通して、系統的・段階的に積み上げられるように、配置されている。</li> <li>(3) キャラクターによる生徒目線の「問いかけ」が示されており、生徒が見通しをもって、主体的に学ぶことができるよう、配慮されている。</li> <li>(4) 「読むこと」教材のてびき中にある「広がる言葉」では、作品中の表現と関連する言葉を学ぶことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにできるよう、工夫されている。</li> <li>(5) 「文法の窓」では言葉による説明だけでなく、図解が用いられ、視覚的にもイメージを広げ、理解しやすくなるよう、工夫されている。</li> <li>(6) 各教材末に「振り返る」において「言葉の力」を図解等で示し、すべての生徒が学びやすいように配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「未来を考えるための九つのテーマ」を設定し、3領域の学習を通して、自分や社会の課題など多様な認識を深められる教材となっている。</li> <li>・ 教科書に示された二次元コードから、豊富なデジタルコンテンツが利用でき、個別最適な学びを支援できるよう、工夫されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 三省堂（『現代の国語』）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字、音声言語それぞれの分野、形態を網羅した教材配列がなされ、特に「読むこと」と「書くこと」の連続性が意識されている。</li> <li>・ 学習過程、読み方、思考の方法を視覚的に示し、様々な読みの方略が実感をもって積み重なり、課題解決に向けた力が育成される。</li> <li>・ 多様な言語活動が設定され、対話を中心として思考力、判断力、表現力等が育成されるよう工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 徐々に文章の抽象度が高まっていく構成となっており、全学年統一された「思考の方法」が初めに示され、「読み方」やその活用方法も段階的に設定されている。該当する単元も提示しており、対応しやすくなっている。</li> <li>(2) 幅広い時代、ジャンルの作品が取り上げられているほか、全学年で現代的な課題を題材とした教材、他教科とのつながりのある教材が配置され、主体的な学びが喚起されるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 生徒相互の対話を促したり、「読み方」と連動して対話を促進したりするような多彩な言語活動が各教材で示されている。</li> <li>(4) 明朝体・ゴシック体・教科書体が本文・見出し・新出漢字で使い分けられており、その教材で学ぶこととなる部分に色付けを行うなど色使いによる文字や情報が識別しやすい配慮がなされている。</li> <li>(5) 教科書上段は本文、下段は言語に関する情報を掲載するなど、理解しやすいように整理されている。学習内容に関する二次元コードにより個別最適な学びを保障している。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全学年において、同じ時期に同じ領域の学習をすることで学習の積み上げを感じられるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 全学年において「読むこと」と「書くこと」の学習が関連付けられた単元があり、「学びを広げる」「生かそう」では問いや課題提示を行うことで教科のみならず生活にも学習した内容を生かせるような教材の配置がなされている。</li> <li>(3) 各教材において、生徒相互の対話や考えの共有など協働的な言語活動の場を設けることで、学習意欲が高まるような工夫がなされている。</li> <li>(4) 各教材の学習過程の例示に、「思考の方法」と「語彙を豊かに」という補助教材が設定され、「知識及び技能」と各領域が関連付けられるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) 「思考の方法」や「読み方」が示され、国語で扱われる用語や方略を図解で示し、情報と文章を関連づけながら具体的にわかるよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 単元冒頭に「目標」を、末尾には「振り返りのキーワード」を明記することで、生徒が自ら学習を振り返ることができるように配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年で「読み方」が段階的に示され、学びの活用場面が設定されることで、実感を伴って力が高まる構成になっている。</li> <li>・ 資料が充実しており、学習者相互の対話を促す言語活動が随所に取り入れられ、対話を中心に学習が進められるよう工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	教育出版（伝え合う言葉 中学国語）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉の機能や働きについて知り、言葉を豊かにしながら、生きて働く「言葉」の習得ができるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 内容を捉え、深め、考えを伝え合う学び方が示され、自己や他者との対話を通して学びを深められる工夫がなされている。</li> <li>・ 「学びナビ」「みちしるべ」「振り返り」によって学びを自覚できるようにすることで生徒の実態に応じて主体的に学ぶ工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各領域の教材が偏りなく配列されていて、1学年から3学年へと螺旋的に学びを積み重ねながら少しずつ難易度を上げていき、「習得」と「活用」を反復しながら言語力が高まるように設定されている。</li> <li>(2) 自分自身について考えたり、人としての生き方について学んだりする教材やSDGsを踏まえた現代的な課題に関わる教材など、多様な教材が配列されている。</li> <li>(3) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の学習活動や、「読むこと」教材の「みちしるべ」等で生徒の交流活動が設けられ、主体的・対話的な学びに導かれるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) ユニバーサルデザインに対応した書体や、デジタル機器で表示した際の視認性が向上した書体を採用し、漢字学習や「書くこと」の習熟に配慮がなされている。</li> <li>(5) さし絵や図版・写真は、文章の理解を助ける資料性の高いものや活動の手順や留意点を明確に示すものなど、学習上必要なものが効果的に取り上げられている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各教材の目標が「学びナビ」で示され、3年間を通して系統的・段階的に学習が進められるように構成されている。</li> <li>(2) 学年内での系統や学年をまたいだ系統を大切にした螺旋的、反復的な単元構成が意図されており、関連性や連続性が有効に図られている。</li> <li>(3) 各教材で、「目標」や「みちしるべ」が明示され、生徒が主体性をもちながら、言語活動を通して互いに伝え合うことを目的にした課題が示されている。</li> <li>(4) 各教材に「知識及び技能」の指導事項が設定され、言語や情報の扱い方や、各領域で学ぶべき知識及び技能が身に付くように構成されている。</li> <li>(5) 各単元、分野において、想像力を高め、生徒の理解を助ける資料性の高いさし絵や写真、図表が取り上げられている。</li> <li>(6) 教材ごとに、3観点における「振り返り」が明示され、学習目標に応じた、次の学びにつながる振り返りができるよう配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元冒頭の「学びナビ」で、学習の重点や学習内容の観点が把握でき、生徒が見通しを明確にして主体的に学べる構成になっている。</li> <li>・ 全学年、情報・メディア教材が設けられ、日常生活や他教科とのつながりを考えて学習が進められる。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 光村図書（国語）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語の学びが社会生活につながるよう、実際に主体的に活用できる知識及び技能として習得できるように工夫されている。</li> <li>・ 多様化する社会に必要な論理的思考力を育てるために、思いや考えを言葉で伝え合う力を高め、思考力・判断力・想像力を養えるよう配慮されている。</li> <li>・ 言語感覚を豊かにし、国語を尊重して、その能力の向上を図る態度を養えるよう工夫している。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教材は、生徒の発達段階を考慮し、段階的かつ系統的に配置され、各領域は軽重をつけながら、大変バランスよく配置されている。</li> <li>(2) 身近な題材から徐々に生き方や広く社会に関わる題材へ、生徒の言語環境と発達段階に応じて、幅広い分野から題材を求め、学習意欲がより喚起されるようによく工夫されている。また、SDGsを意識して、一人ひとりが地球の未来について考えるきっかけとなるような教材が各学年に適切に配置されている。</li> <li>(3) 日常生活に関連したり、知的好奇心を喚起したりするような言語活動が設定されており、主体的・対話的な学習が促されるよう工夫されている。</li> <li>(4) 手書き文字に近い教科書体を用いたり、ユニバーサルデザインの観点から小さな文字にはUD書体を用いたりすることで、視認性を高めている。</li> <li>(5) 「学びへの扉」「学びのカギ」では、学習の流れやポイントが示される等、学習の見通しがもてるよう工夫がなされ、図表は、色に頼らずに識別できるように、線の種類や濃淡で表現され、色覚特性に配慮されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の発達の段階や習熟の過程を考慮し、段階的かつ系統的に学習ができるように構成されている。</li> <li>(2) 各領域に、「学びのカギ」が示され、育成すべき資質や能力を、領域を超えて活用できるよう、単元相互の関連性や連続性が有効に図られている。</li> <li>(3) 「言葉による見方・考え方」を働かせて表現をするとともに、それに対して意見や感想を伝え合うことで、相互に関わり合う活動が示されている。</li> <li>(4) 「思考のレッスン」「情報処理のレッスン」等知識及び技能に関する資料を用いて、3領域の学習と関連づけ、段階的・系統的に学習できるよう工夫されている。</li> <li>(5) 巻頭・巻末や教材中に挿絵や写真、図・グラフが掲げられ、目的に応じて効果的に活用できるよう適切に配慮されている。</li> <li>(6) 「振り返る」が本教材のあとに設けられ、評価の観点が明確になるとともに、各教材の目標と重ねて、つける力を意識しながら学習し、最後に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から自らの学びを言語化して振り返り、次の学習につなげられるように十分に工夫、配慮されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学びへの扉」に、見通しと学習の流れが明確に示されており、生徒が活動を見通して、主体的に学習を進め、対話的に考えを深められるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 教科等、横断的に取り扱える題材や、SDGsと関連する教材が選定されている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

書 写

東 京 書 籍

三 省 堂

教 育 出 版

光 村 図 書

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 東京書籍（新編 新しい書写）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各単元の目標となる、文字を正しく速く書くために必要な知識及び技能が「書写のかぎ」で分かりやすくまとめている。</li> <li>・ 書写で学んだことを日常生活にも生かし、思考力・判断力・表現力を高めるために「生活に広げよう」を設定し具体的な活用を提示している。</li> <li>・ 「文字といっしょに」では言語に関する伝統文化を尊重し継承しようとする態度を養い、手書きの価値に気づくよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	(1) 字形について、筆順、行書と楷書の使い分けなどを習得できるよう発達段階に応じた内容になっている。 (2) 生徒が、興味・関心をもち、文字の伝統文化に触れられる「文字といっしょに」や学習したことを活用する「生活に広げよう」、生徒が書写の授業に必要感をもって臨むことができる「文字を『書く』ってなんだろう」が設けられ、主体的に学習に取り組むことができるように配慮がなされている。 (3) 「1 見つけよう」「2 確かめよう」「3 生かそう」の3つの段階で構成され、生徒の気付きから具体的な知識及び技能が身につくように工夫されている。 (4) 教材文字を上配置することで、左利きの生徒でもお手本を見ながら練習できるように配慮されている。また、読み仮名や吹き出しをUD文字にすることで、どの生徒も読みやすいように工夫されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	(1) 楷書、行書が発達段階に合わせて配置してある。また、それぞれの書体の点画、筆順、文字の大小など生徒の思考に沿った展開になっている。 (2) 行書と楷書を比較し、点画、筆順の差を意識できるようになっている。また、硬筆、毛筆ともに基礎的な技能が段階的に習得できるように配慮がなされている。 (3) 目的に照らして書写を生かす「書写活用ブック」や、書写の力が具体的に生きてくる場面を示した「身の回りの文字の豊かさに触れ、効果的に書く」「生活に広げよう」など様々な題材が配列され、生活に役立つ力を育てられるよう配慮がなされている。 (4) 動画で視覚的に書き方が理解できるように書写の学習の進め方の二次元コードから、動画が一覧になっているサイトに接続するため、用途に応じて動画を選択しやすくなっている。 (5) 「行書のまとめ」では、生徒や教師が習得した内容を振り返れるように工夫されている。また、「書写テストに挑戦！」では、書写で習得したことを生かせるような内容になっており、生徒も教師もまとめや評価の観点が明確になるように工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文字文化に触れ、生活とのつながりを意識しながら、生徒が書写を学ぶ必要性を感じ、主体的に学習できるよう配慮されている。</li> <li>・ 書写で身につけた力を生活の中で活用できる場面をイメージしながら、学習を展開することで思考力、判断力、表現力等を高められるよう工夫されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	三省堂（現代の書写）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毛筆学習のあとに繰り返し書くことで硬筆練習ができる題材が設定されており、知識及び技能の習得ができるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 全ての教材に学習目標と振り返りが設定されており、生徒が主体的に臨めるよう配慮がなされている。</li> <li>・ 様々な資料から、豊かな文字文化への認識が深まり、文字や手書きの意義を感じられるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  【本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等】	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小学校書写での学習内容を確認した上で、楷書、行書と学習が進んでいき、高等学校芸術科書道や発展的な内容へとつながっていくよう、発達段階に即して教材が系統的に配列されている。</li> <li>(2) 手紙・のし袋・願書・原稿用紙など、学習場面や社会生活で生かすことができる活動が提示され、生徒が興味を持って主体的に学べるような工夫がなされている。</li> <li>(3) 各学年末には「やってみよう」という教材が設定され、生徒同士の対話を通して書写の学習を深められるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) カラーユニバーサルデザインの観点から色覚の特性を考慮して、誰にでも見やすく学びやすい配色になるように配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  【「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価】	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 楷書体から行書体、行書と仮名の調和、楷書と行書の使い分け、身の回りの文字へと段階的な単元配列がなされている。</li> <li>(2) 各教材に「書き方を学ぼう」が設けられ、書き方のポイントが分かりやすく明示され、他の文字に応用したり、既習事項と比較したりして学習が積み重ねられる配慮がなされている。</li> <li>(3) 活字と手書き文字の違いや、手書き文字の魅力を伝えている人々の紹介がされており、文字文化への理解が深まることで手書きすることの意義を感じられるような工夫がなされている。</li> <li>(4) 各教材に二次元コードにより、解説動画や書字動画、補助教材や参考資料などを提示し視覚的に指導できるような工夫がなされている。特に点画の書字動画については点画ごとにまとめられている。</li> <li>(5) 単元末に設定されている「振り返ろう」では、実際に書き込んで学習の成果を確かめることができ、評価の観点が明確になるように工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毛筆学習のあとに硬筆で繰り返し練習することで、学習内容の定着を図ったり、他の文字にも応用できる力がついたりするよう工夫がなされている。</li> <li>・ 「書き方」の段階的な明示により、社会生活に生きる力を身につけることができ、技能の高まりが実感できる構成になっている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 教育出版（中学書写）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「基本姿勢」「学習の進め方」が巻頭に示されており、書写を通して学ぶ必要な知識及び技能を自主的に習得できるよう工夫がなされている。</li> <li>・ 各学年において「考えよう」の学習場面を設けており、話し合いを通して気づいたことを教科書に書き込むことで課題解決に向けた学びの工夫がなされている。</li> <li>・ 手紙の書き方・ノートの取り方・案内状など、身近な教材が取り上げられており、日常生活で活用できるように配慮されている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 硬筆・毛筆教材ともに、生徒の発達段階や語彙・言語環境が考慮された文字や語句が教材化されている。</li> <li>(2) 日常生活において用いられたり目にしたりする本の帯・ポスター・短冊や色紙・新聞・案内状・手紙・葉書・包み紙の書き方などが示され、学校生活や日常生活で生きて働く力を育成できるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「学習を生かして書く」の単位では、「考えよう」で教材文字と試し書きを比べたり、話し合い活動で意見を交換したりしながら自らの学習を深め、「生かそう」で必要な技能を身につけられる工夫がなされている。</li> <li>(4) 横幅の広いA B版の紙面で構成されており、半紙版のイメージがもちやすい。また、見開きで内容や手順が示されているため、視覚的な効果が大きく、内容が見やすい配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 楷書から行書、仮名文字との調和など、生徒の発達段階に合わせた単元配列がされている。</li> <li>(2) 1学年では楷書と行書の違いを分かりやすく説明し、2学年では漢字の行書とそれに調和する仮名の書き方を理解し書くことができる力が習得できる。3学年で行書と仮名を調和させて書く力が習得できるように、学年に応じて個の力に即した書写に挑戦できる配列が考えられている。</li> <li>(3) 「学習を生かして書く」の教材では、習得したことをポスターや案内状や新聞の見出しなどに活用できるように関連が図られている。</li> <li>(4) 二次元コードにより、視覚的に学習の内容や筆の使い方、運筆などの動作を確認することができる。</li> <li>(5) 各単位には目標が定められており、「試し書き」「まとめ書き」の欄を設けて自分の課題に気づきながらどう学ぶかを考えることができ、「振り返ろう」でつけた力を確かめられる工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学習の進め方」を示されており、生徒自身が見通しをもち学びを進められる工夫がなされている。</li> <li>・ 日常生活や学習活動において、生きて働く書写力が育成されるように教材構成がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 光村図書（中学書写）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全教材において、書写の学習を通して幅広い知識・教養を身につけるとともに、書写で培った「文字を正しく整えて早く書く力」を国語や他教科、日常生活で活かす態度を育成できるように工夫されている。</li> <li>・ 生徒が見通しをもって主体的に学習できるよう、展開が一目で分かるように工夫がされている。</li> <li>・ 知識・技能を習得し、課題解決を行う過程で、「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」など「生きる力」を支える能力を養える工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全教材、硬筆・毛筆とも生徒の発達段階に即した字体や文章で表現しており、国語の教材や日常生活に関連した文字や言葉、文章が選定されている。</li> <li>(2) 教科書全体を通してSDGsの達成に向けて教材化を図ったり、手紙やはがき、原稿用紙や通信文の書式を整理して示したりして、生徒が興味・関心を持てるように工夫され、配慮されている。</li> <li>(3) 全教材で「考えよう」「確かめよう」「生かそう」と学習展開が固定されており、気づきから原理原則を確認し、日常生活に生かすというように見通しをもって主体的に学習できる工夫がなされている。</li> <li>(4) 情報を精選し、大切なことがひと目でわかるレイアウトや細やかな支援により、すべての生徒に学習しやすく、支援を必要とする生徒にも混乱や読みにくさが生じないようによく工夫されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各学年の巻頭で指導要領に沿った目標を掲げ、発達段階に合わせた学習となるように書体、筆順、点画など系統的な単元の配列になっている。</li> <li>(2) 巻頭の「中学書写スタートブック」で書写の基礎・基本を分かりやすく示し、別冊の硬筆練習帳「書写ブック」で硬毛の密接な関係を図りながら、毛筆での学習が硬筆に生きるような工夫がなされている。</li> <li>(3) 手書きの良さや書き初めの由来、地域の書き初め文化の紹介など、優れた伝統の継承と新しい文化の創造を培えるように配慮されており、また国語教科書と連動した教材や学校生活で活用できる教材を掲載し、生徒が主体的に取り組めるような工夫がなされている。</li> <li>(4) 運筆などの動作を確認するために、写真だけでなく二次元コードを配置して動画でも確認できるように工夫しており、さらに左利きの生徒に配慮した写真や動画も用意されている。</li> <li>(5) 全教材に「目標」と「振り返ろう」を設定し、知識・技能の定着や自己の変容を確かめられる構成に工夫されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて二次元コードから動画により運筆や学習手順がよりわかりやすく確認できるようになっている。また、右利き、左利きそれぞれの二次元コードがあり、多様性について十分に配慮がなされている。</li> <li>・ 毛筆での学習を定着させるための「書写ブック」が別冊で設けられ、生徒が主体的に学ぶことができ、学びを日常に生かす工夫が十分になされている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

社 会 (地理的分野)

東 京 書 籍

教 育 出 版

帝 国 書 院

日 本 文 教 出 版

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 東京書籍（新編 新しい社会 地理）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域を捉える視点が明確に示されており、地域の様子を大観し、学習課題の解決に必要な知識及び技能が効果的に身につくように大変工夫されている。</li> <li>・1時間単位の学習では「チェック&amp;トライ」、単元の終末では、単元を貫く問いを多様な思考ツールを用いて考察し、思考力・判断力・表現力等が身につくように大変工夫して構成されている。</li> <li>・地域による違いや生活の工夫、異文化などに関心を高めたり、持続可能な社会の形成について意識したりできるよう「もっと解説」「未来にアクセス」のコラムを設け、問題解決や社会参画に向けた主体的な態度を養えるように大変工夫されている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1時間見開き2ページを原則とし、学習指導要領に示された内容を基にした探究課題、大きな資料が定位置に配置され、文章表現は平易で具体的な記述であり、大変配慮されている。</li> <li>(2) 地域を大観できる解説、コラム「聞かせて！中学生」や「もっと知りたい」が設けられ、世界と日本の諸地域の地域的特色に興味・関心が高まるよう適切な工夫がされている。</li> <li>(3) 単元のまとめでは、「みんなでチャレンジ」のコーナーが設けられており、小集団で単元を貫く探究課題について主体的・対話的に学習を深め合えるよう大変工夫がされている。</li> <li>(4) 地理的分野における見方・考え方を働かせて、単元を貫く学習課題を考察し、課題把握や解決に向けて構想する力が身に付くように大変工夫されている。</li> <li>(5) フラットデザイン、ユニバーサルフォントを用いており、学習者が必要な情報に集中できるように適切な工夫がされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全ての単元において、導入部→展開部→終結部の形で単元が構造化され、学習の流れが捉えやすいように適切に構成されている。</li> <li>(2) 単元の導入で単元を貫く探究課題を設定し、1時間ごとの学習課題を考察しながら学習を進めていくことができるよう大変工夫がされている。</li> <li>(3) 導入場面での「地理のミカタ」から地理的分野における見方・考え方を意識させて、社会的事象を考察できるよう大変配慮がされている。</li> <li>(4) 教科書全体を環境・エネルギー、人権・平和、伝統・文化、防災・安全、情報・技術の5つのテーマで貫き、現代的な諸課題を意識しながら学習を進められるように適切な工夫がなされている。</li> <li>(5) 学習課題を把握するための大きな資料や二次元コードが定位置に配置され、デジタルコンテンツを活用しながら効果的な指導できるよう大変工夫されている。</li> <li>(6) 終末部では、思考ツールを用いて、これまでの学習を振り返りながら見方・考え方を働かせて探究課題について考察できるよう大変工夫されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代的な諸課題の5つのテーマで貫き、解決に向けての主体的な追究につながるようにとっても工夫された単元構成がなされている。</li> <li>・コラム「未来にアクセス」では、地域の現状を把握し、未来へ向けた持続可能な取り組みについて、他分野との関連を意識しながら思考を深めていけるよう大変工夫されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	教育出版（中学社会 地理 地域にまなぶ）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の「学習課題」に対し、本文の「確認」や「学習したことを確認しよう」、「地理の技」で、知識及び技能を身に付けられよう適切に工夫がなされている。</li> <li>・本文の「表現」や「THINK！」により、資料の読み取り及び考察の視点が提示され、「地理的な見方・考え方」を働かせて思考力・判断力・表現力等を習得できるよう工夫がなされている。</li> <li>・本文から掘り下げた内容で視点を変えたり、視野を広げたりする内容の「地理の窓」や、多面的・多角的に考察できる「クロスロード」など、現代的な話題を豊富に取り入れ、主体的に追究、解決できるよう工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習の展開や見通しがつかみやすいよう、1時間見開き2ページで授業が構成され、学習課題が明記されている。写真や図版について説明や見方が示されており、学習内容について理解を深められるよう適切に配慮がなされている。</li> <li>(2) 導入として、生徒の関心・意欲を高めるような写真や統計・資料などを集めた学習を見通すページが設けられ、振り返りを充実させることで主体的・対話的で深い学びが実現できるよう単元構成の工夫がなされている。</li> <li>(3) 毎時間の導入資料には追究のきっかけとなる視点「LOOK！」を提示し、「学習課題」「追究」「確認」「表現」とつなげられるよう構成されている。</li> <li>(4) 地域での調査活動に必要な学び方の手がかりとして「地域調査の手引き」が示され、調査の見通しから発表・提案まで取り組めるよう工夫されている。</li> <li>(5) UD フォントを基本とし、白抜き文字や色文字は十分な大きさが確保されており、字間、行間も見やすく配慮されている。図版資料は大き目で、配色や模様を工夫することで、判読しやすいよう適切に配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  （「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 単元を通した「学習テーマ」（問い）を軸にして、課題解決的に追究しながら、基礎的・基本的な学習活動ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 単元の導入や毎時間の学習課題、重点的に配置された「THINK！」、「学習のまとめと表現」を設け、単元を通した一連の学習となるよう構成されている。</li> <li>(3) 「LOOK！」や吹き出し等を用いて気付きや問い、学習の手がかりを示すことで、資料の読み取りの際の視点を示すよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 適所で地球的課題とSDGsとの関連にふれられているとともに、現代的課題が反映された事象を教材化することで、課題解決に向けた視点を養えるよう工夫されている。</li> <li>(5) 本文に資料との関連が分かる番号を付し、導入資料には解説や吹き出しを付けることで、学習が深まるよう適切に工夫がなされている。</li> <li>(6) 「学習のまとめと表現」は、生徒が振り返りやすいようページも示されており、3観点に沿って段階的に学習効果を整理できるよう適切に工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・編、章、各授業の導入部に学習の見通しや見方・考え方が提示され、生徒の学びへの意識や関心を高めることにつながるよう工夫されている。</li> <li>・「問い」を軸に課題解決的に追究していく構成が貫かれており、言葉で表現したり、対話したりすることで深い学びにつながるよう工夫されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	帝国書院（社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土）
1 教科の目標からの 配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間の「学習課題」に対して、学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」を通じて、基礎的・基本的な技術知識及び技能の習得を促す工夫が適切にされている。</li> <li>・「地理的な見方・考え方」を活用し、各時間の「学習課題」や章末・節末の「学習を振り返ろう」に取り組むことで、思考力・判断力・表現力が育成されるように適切な配慮がなされている。</li> <li>・単元の導入では、写真などの図版が大きく提示され、図版資料の読み取りを通じて、学習に対する見通しをもち、主体的に学習に取り組めるように適切な工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への 配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意 性  〔 本文、見出し、設 問、提示文等の表 現、さし絵、写真、 図表、配色、フォ ント、コントラス ト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 単元を貫く「章・節の問い」や見開き1時間の授業を想定した毎時間の「学習課題」が明確に設定され、大変工夫されている。</li> <li>(2) 「日本の諸地域」の単元冒頭には、イラスト地図等が提示されており、地域への興味・関心を高め、各地域の特色を端的にとらえられるように工夫がなされている。</li> <li>(3) 「章・節の問い」、各時間の「学習課題」に対して、「確認しよう」「説明しよう」を手がかりに主体的で対話的な学習ができるように適切に構造化されている。</li> <li>(4) 第4部「地域のあり方」では、地理的分野のまとめとして、既習の知識・技能や思考力、判断力、表現力を生かして、「持続可能な社会の実現」に向けた探究的な学習に取り組めるように工夫がなされている。</li> <li>(5) カラーやフォントにユニバーサルデザインを採用することで、文字や図版を読みやすくし、インクルーシブ教育への適切な配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習 得」のための工夫、「思 考力、判断力、表現力 等の育成」のための工 夫、「学びに向かう力、 人間性等の涵養」のた めの工夫、関連性・連 続性、個に応じた学 習、他者との協働、ま とめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各見開きが「導入」→「学習課題」→「確認しよう」「説明しよう」の展開で構造化されており、学習効果が高まるように資料の配置が適切に工夫されている。</li> <li>(2) 単元を貫く「章・節の問い」や1時間ごとに「学習課題」が設けられ、課題解決的な学習ができる適切な構成になっている。</li> <li>(3) 「技能をみがく」では、「地理的な見方・考え方」を働かせる上で必要な基礎的技能を習得できるように適切な配慮がなされている。</li> <li>(4) 「アクティブ地理」では、正解が1つではない地域の今日的な課題を取り上げ、他者との合意形成を目指す態度も身に付けられるよう工夫されている。</li> <li>(5) 資料と本文が密接に関連しているため、地理的事象の背景や因果関係を読み取ることができ、「地理的な見方や考え方」を自然と働かせられるように適切に工夫されている。</li> <li>(6) 各章・節末の「学習を振り返ろう」では、3観点に即したまとめに取り組めるように構成されている。また、様々な思考ツールを用いて自分の考えを整理・構造化できるように適切な配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々の営みが伝わる写真やイラスト地図等の図版を掲載し、生徒が意欲的に学びに向かえるように適切な工夫がされている。</li> <li>・デジタルコンテンツも充実しており、学習内容の習得や、学習が深められるための工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	日本文教出版（中学社会 地理的分野）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間の「学習課題」に対し、「確認」や「まとめとふり返し」を設けることで、知識の定着を図れるように工夫がされている。また、適所に「スキルUP」を設けることで、適当な技能の定着を図れるように適切に工夫がされている。</li> <li>・各時間の「学習課題」に対し、見方・考え方を示し、「表現」や「まとめとふり返し」を設けることで、地理的な見方・考え方を働かせて思考力・判断力・表現力等が身につくように適切に工夫がされている。</li> <li>・「節の問いを立てよう」で問いや見通しをもつことで、主体的に学習に取り組むことができるように工夫がされている。また、「議論してみよう」を通して、よりよい社会の実現に向け、主体的に追究できるように工夫がされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開きで1時間の授業を想定し、学習の流れに沿って「学習課題」が設定され、それに応じた「確認」や「表現」が大変適切に設定されている。</li> <li>(2) 多数の図版からの州・地方の地理的事象の読み取りや、「持続可能な社会をめざして」を通して、州・地方への興味・関心が深まるように適切な工夫がされている。</li> <li>(3) 「学習課題」に対し、「見方・考え方」に着目して掲載資料を手がかりに生徒が主体的・対話的に学習できるように工夫されている。</li> <li>(4) 第3編「地域調査の手法」の章で地域の特色を捉えた上で、日本の各地域の特色を捉えることで、各地域での取り組みを踏まえ、「地域の在り方」の章で地域の課題解決に対し、考察が深まるように適切な工夫がされている。</li> <li>(5) ユニバーサルデザインを意識した字体や色調が用いられている。また、資料や図版のサイズをそろえることで、対比・比較しやすいように適切な工夫がされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 節の問いを設定し、それに沿った学習活動が行えるように、基本的・基礎的な学習内容が適切に選択されている。</li> <li>(2) 各節で問いを設定し、それに基づいて1時間ごとの「学習課題」が設けられ、まとめでは思考ツールを用いて整理することで、課題解決が行えるように適切に工夫されている。</li> <li>(3) 「学習課題」に対し、「見方・考え方」を示すことで、地理的な見方・考え方を働かせて、地理的事象の背景などが資料から読み取れるように工夫がされている。</li> <li>(4) 節のはじめに「持続可能な社会をめざして」を設け、地域的・地球的な諸課題を踏まえて節の問いを設定し、学習活動が行えるように適切に工夫されている。</li> <li>(5) 図版に番号を示し、本文には関連する図版の番号を示すことで、図版と本文を関連させながら読み取りが行えるように適切に工夫されている。また、図版には適所に「資料活用」を設け、資料の読み取りが深まるように適切な工夫がされている。</li> <li>(6) 「まとめとふり返し」では、3観点それぞれに即した活動が設けられ、観点を明確にして学習がまとめられるように工夫されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各節の地域的特色に基づいた資料から「節の問い」を設定し、各時間には「見方・考え方」を示すことで、見通しをもって学習活動が行えるように構成が工夫されている。</li> <li>・1時間ごとの学習で、二次元コードを読み取ることでICT機器を効果的に用いて知識の定着を図れるように工夫されている。</li> </ul>

社 会（歴史的分野）

東 京 書 籍

教 育 出 版

帝 国 書 院

山 川 出 版 社

日 本 文 教 出 版

自 由 社

育 鵬 社

学 び 舎

令 和 書 籍

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 東京書籍（新編 新しい社会 歴史）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スキル・アップ」では、資料の読み取りを通して歴史学習に必要な基礎・基本的な知識・技能が定着できるように大変適切に配慮がなされている。</li> <li>・「活動コーナー」など、歴史的な見方・考え方を働かせて、多角的・多面的に思考・判断・表現等ができるように適切に学習活動の工夫がなされている。</li> <li>・現代社会の諸課題を意識しながら、主体的に社会に関わろうとする資質・能力を養えるように大変適切に配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開き1時間の授業の展開構成になっており、導入、展開、まとめまでの1時間の学習の流れが分かりやすくなるように適切に配慮がなされている。</li> <li>(2) 「探究課題」「探究のステップ」「学習課題」と単元の構成が可視化され、意欲的に課題解決的な学習ができるように大変適切に工夫がなされている。</li> <li>(3) 「みんなでチャレンジ」では、小集団による対話的な活動を促しており、多様な意見や考えを調整したり、まとめたりすることで主体的に思考を深められるように大変適切に配慮がなされている。</li> <li>(4) 「身近な地域の歴史」では「テーマと問いの設定」「調査」「考察」「まとめ・発表」「ふり返り」の流れを示しながら社会的な見方・考え方を働かせて調査し、表現することを通して技能が身に付くよう適切に配慮がなされている。</li> <li>(5) 資料部分の背景に色を入れたり二次元コードからの資料に適切に工夫がなされたりしている。また、デジタル教科書では、「Google 翻訳」「総ルビ・分かち書き表示」によりユニバーサルデザインに適切に配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  （「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「導入資料」「学習課題」「本文」「チェック＆トライ」の流れで紙面が構造化され、学習内容が定着できるように適切に工夫がなされている。</li> <li>(2) 「導入の活動」と「まとめの活動」に一体感をもたせ、連続的に課題を追究しながら学習を進められるように大変適切に配慮がなされている。</li> <li>(3) 「まとめの活動」では、多様な思考ツールを活用して事象をまとめ、時代の特色をつかむ学習が展開できるように大変適切に配慮がなされている。</li> <li>(4) 「環境・エネルギー」など、全体の内容を五つのテーマで貫き、現代的な諸課題を意識した学習が行えるように適切に工夫がなされている。</li> <li>(5) 本文に資料番号を付して効果的に資料が活用できるようにしたり、「年表スケールインデックス」により、歴史全体の中での位置づけが把握しやすくなるように、大変適切に配慮がなされたりしている。</li> <li>(6) 単元末のまとめで評価の3観点のアイコンを示し、学習活動と評価との関連が分かりやすくなるように大変適切に配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料提示による導入から始まり、問いを追究して課題を解決する構成となっており、生徒の主体的な学習を促すよう、大変適切に工夫がなされている。</li> <li>・多様な資料や思考ツールを掲載したり、対話活動などの学習活動を例示したりして、歴史的な見方・考え方を働かせながら思考を深められるように大変適切に工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 教育出版（中学社会 歴史 未来をひらく）
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習のまとめと表現」HOP！を設け、章全体を振り返り、年表や地図をまとめる作業を通じて知識・技能の定着が図られるよう配慮がなされている。</li> <li>・「学習のまとめと表現」STEP!JUMP!を設け、自ら考察し、集団で表現し合う活動を位置づけ、思考力、判断力、表現力が育成されるよう配慮がなされている。</li> <li>・「学習のはじめに」を設け、当時の人々の暮らしの様子がわかる資料を提示し、生徒自らが読み取りながら章の見通しをもてるように配慮がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開き2ページで1時間の授業として配列し、資料→学習課題→確認/表現という展開で見通しをもって学習が進められる工夫がなされている。</li> <li>(2) 毎時間の学習のきっかけや追究となるような資料をふき出しによる問いかけとともに紹介し、生徒の関心・意欲が高められるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 章のはじめに導き出された「章の問い」を軸にして、課題解決的に追究していくことで、生徒が主体的・対話的に学習できるよう適切な工夫がなされている。</li> <li>(4) 「歴史を探ろう」や「身近な地域の歴史を調べよう」を設け、通史学習で理解した内容を、視点を変えて捉えなおして社会的事象に対する見方・考え方を働かせる適切な配慮がなされている。</li> <li>(5) 本文や注、図やグラフなどにユニバーサルデザインを採用し、視覚的に見やすいよう適切な配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各章では、日本と世界の歴史がバランスよく配置され、時代背景を大局的に捉えながら学習できるよう単元の適切な配列がなされている。</li> <li>(2) 「学習のはじめに」で課題を捉え→「本時ページ」で課題解決→「特設ページ」で捉えなおして考察→「学習のまとめと表現」で振り返り、整理・考察するという連続的に追究できるように適切な単元構成がなされている。</li> <li>(3) 「歴史の窓」コラムを設け、社会的事象の比較や推移などの「社会的な見方・考え方」を働かせながら、本文とは違う視点から歴史を捉えなおし、多面的・多角的に思考できるように適切な配慮がなされている。</li> <li>(4) 人権や多文化共生、環境、資源・エネルギー、伝統・文化、情報、防災・安全、我が国の領土などの社会に見られる諸課題を取り上げ、これらの解決に向けて社会に参画していく意識・態度を高められるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 「まなびリンク」を設け、二次元コードから単元と関係するクイズ、動画、リンクをいつでも確認でき、個別最適な学びを支援する工夫がなされている。</li> <li>(6) 「確認」と「表現」の二項目を学習のまとめとして設け、1時間ごとに学習内容を振り返り、知識及び技能の定着が図れるように配慮がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元（章）を通して、「問い」を軸にして、課題解決的に学習を進めることで社会を読み解き、学び合えるような工夫がなされている。</li> <li>・得た基礎的・基本的な知識・技能を活用して、自分の考えを表現したり、多面的多角的に物事がとらえられるような配慮がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 帝国書院（社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入から、学習課題、本文、「確認しよう」「説明しよう」と課題を追究しながら知識・技能が習得できるよう配慮が適切になされている。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びを実践するため、特設ページなど協働的に学習する場面を設定し、思考力、判断力、表現力等が育成されるよう配慮が適切になされている。</li> <li>・冒頭に「小学校で学んだ出来事」の年表があったり、下部に関連が示されたりしており、小学校での学習や他分野や他教科と関連させながら、主体的に学べるよう配慮が適切になされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  [ 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 ]	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 中学生の発達段階を考慮して、解説や写真および図版の説明を設け、基礎的な知識の習得が図られるよう工夫が適切になされている。</li> <li>(2) 時代の様子が描かれた「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えようイラスト編」で、興味・関心を高めながら、気付きや発見を生かして追究できるように工夫が適切になされている。</li> <li>(3) 基本的に見開き2ページのレイアウトで学習や思考を深められる工夫が適切にされている。また、QRコードを読み取ることで「個別最適な学び」を支援する様々なQRコンテンツが適切に用意されている。</li> <li>(4) 「歴史を探ろう」で、学習内容を具体的に考える場面を設定し、「見方・考え方」を働かせて思考を深められるように配慮が適切になされている。</li> <li>(5) ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインを採用し、見やすさや誤読を防ぐ配慮が適切になされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  [ 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 ]	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各見開きが、本文、資料、側注などが統一され、「導入→学習課題→本文→確認しよう・説明しよう」という展開で構造化され、学習が展開しやすくなるよう工夫が大変適切になされている。</li> <li>(2) 単元を貫く「章の問い」「節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、章末の「学習を振り返ろう」と問いが構造化され、連続的に学習が展開できるよう構成が適切にされている。</li> <li>(3) 「世界とのつながりを考えよう」（地図編・イラスト編）で、「見方・考え方」が設けられ、「歴史的な見方・考え方」を働かせ、世界の歴史の特色や日本との関連を多面的・多角的に考え学習できるよう工夫が適切になされている。</li> <li>(4) 「未来にむけて」のコラムで、持続可能な開発目標とのつながりを示したり先人の生活を豊かにする工夫や困難や共存、工夫を学ぶことでどのように現在につながり、よりよい社会の実現に向けて考える学習ができるよう配慮が適切になされている。</li> <li>(5) 見開きでのイラストや地図、大きめに掲載された資料、動画などの資料が利用できるQRコンテンツを配置し、生徒の学びを深めることができるよう工夫が大変適切になされている。</li> <li>(6) 毎時の目標「学習課題」に照らした「確認しよう」「説明しよう」という振り返りの活動を設け、学んだことを自分の言葉でまとめる学習が進められるように工夫が適切になされている。また、章末の「学習を振り返ろう」では、「知識」「思考・判断・表現」「主体的な学び」を整理、まとめが出来るよう配慮が適切になされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の営みが大観できる大きなイラスト資料・イラスト地図を用意して、時代の特色を視覚的に捉えられるよう工夫が適切になされている。</li> <li>・「琉球とアイヌ民族」の歴史を古代から現代まで取り上げたり、特設ページやコラムで当時の社会を地域の視点から見たりすることで多面的・多角的に日本の歴史を捉えようと工夫が適切になされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	山川出版社(中学歴史 日本と世界 改訂版)
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元が学習課題→本文→ステップアップによる振り返りという流れで統一され、知識・技能を身に付けられる配慮がなされている。</li> <li>・各単元の学習課題、ステップアップ課題、図版に付した発問など、各所に設けた発問を自ら考え、判断の力を身に付けられるように配慮がなされている。</li> <li>・大きな紙面を利用して図版を大きく、みやすくし、発問によって、どこに注目すべきかの示唆を与え、歴史への興味関心を呼ぶ工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘索性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開き2ページで1時間の授業として配列し、因果関係を重視した説明でありながら、わかりやすい叙述になるように配慮がなされている。</li> <li>(2) 章のはじめの「日本と世界のできごとを上下に分けて示す帯年表」や「各時代の世界」を地図とイラストで紹介するページを設け、生徒が視覚的に流れをつかみ、生徒の関心・意欲を喚起する工夫がなされている。</li> <li>(3) 因果関係を重視した本文の記述や豊富な発問を通して生徒自らが関心を持ち、主体的・対話的で深い学びができるように適切な配慮がなされている。</li> <li>(4) 「身近な地域を調べよう」を設け、実際の中学生を想定した調査の順序、注意事項を示し、生徒が比較や分類、根拠付けなどの見方・考え方を働かせて学習できる適切な配慮がなされている。</li> <li>(5) 地図・グラフをはじめ、資料はカラーユニバーサルデザインを意識し、色彩のみでなく、線種・記号などで差をつける工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基礎的・基本的な内容に加え、本文は因果関係を意識して記述され、単元の適切な配列がなされている。</li> <li>(2) 見開き冒頭に学習課題を提示し、最後に学習内容を踏まえての問い「ステップアップ」が設けられ、連続的に追究できるように工夫がなされている。</li> <li>(3) 「歴史へのアプローチ」では、時代を通した視点やグローバルな視点で10テーマが取り上げられ、それぞれの社会的事象の関連や意味を多面的・多角的に考察する力を高める適切な配慮がなされている。</li> <li>(4) SDGs17の目標のうち10の目標について、本文や「歴史へのアプローチ」、「地域からのアプローチ」で扱い、現代的な諸課題をテーマに学習を進められるように工夫がなされている。</li> <li>(5) 約40カ所に二次元コードを設け、教科書掲載写真の拡大を見つつ教科書に掲載されている発問に答えることや動画などを見て理解をより深める学習展開ができるように工夫がなされている。</li> <li>(6) 各章の終末には「まとめ」が設けられ、社会的事象の時期や推移、類似や分類などを意識した学習が進められるように配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊富で多様な発問や因果関係を重視しており、生徒自らが考え、自分たちの社会をつくる力を養うことができるように工夫がなされている。</li> <li>・世界の歴史に関する内容を充実させ、日本の歴史との関連や現在の国際情勢との関連を意識しやすいように工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	日本文教出版（中学社会 歴史的分野）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的因果関係を資料と本文を関連付けて記述し、知識のみならず資料や事実から読み解く技能を身に付ける表現するよう配慮がなされている。</li> <li>・まとめを自分の言葉で説明するページや活動を入れ、生徒の思考力、判断力、表現力等を育めるよう配慮がなされている。</li> <li>・文章量が増えすぎないように資料や解説を適宜入れ、歴史全体を俯瞰し、生徒が自ら学べるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習内容を焦点化し、見開き 2 ページを 1 時間で学べるように平易な表現で理解が深まるように工夫がなされている。</li> <li>(2) 導入のページで小学校の既習事項を年表や世界地図で想起し、興味・関心・を喚起して学びが深まるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 生徒どうしの話し合いなど対話的な活動など協同的な学びを効果的に取り入れられるものには「学び合い」のマークが付いている。</li> <li>(4) 「チャレンジ歴史」を設けて既習内容を生かし、新聞記事や写真、解説に触れながら「社会的な見方・考え方」を働かせ、まとめを自らの言葉で表現できるよう配慮が適切になされている。</li> <li>(5) 単元カラーを設定し、本文ページの右端に時代・世紀のスケールを設け、現在学習している時代や世紀を常に確認できるよう工夫がなされている。また、ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザイン、平易な文章表現で生徒の読み取りに配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「学習のはじめに」で、協働的な学びやQRコンテンツ内のイントロダクションムービーを利用して単元を貫く問いを立てたり、問いの答えを予想したりすることで、学習の見通しがもてるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 前ページの「確認」でまとめられた点が次のページの内容と連続しており、推移や因果関係がとらえられるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 各章の終末の「まとめと振り返り」や「チャレンジ歴史」では、いくつかのステップに分けた活動を提示することで、時代の特色や歴史的事象について構造的に学ぶことができるよう工夫が適切になされている。</li> <li>(4) 「先人に学ぶ」「各時代の女性」「歴史を掘り下げる」などのコーナーを設けて、現代的な諸課題を理解し、課題を解決しようとする態度を育成できるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 導入とまとめのページにそれぞれ年表と地図を配置し、生徒がこの時代で学ぶことを時間軸と空間軸の両方で確認することができるよう工夫が適切になされている。</li> <li>(6) 毎時間「確認」を示し各時代の終わりには「まとめと振り返り」を設け、まとめを行う際の評価の観点が明確になるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史の学習を通して、現代的な諸課題を考えたり、よりよい未来を考えたりすることができるテーマが適切に設定されている。</li> <li>・見開き 2 ページに一つ「見方・考え方」を設け、学習課題解決の手がかりとなる主な「歴史的な見方・考え方」の例を適切に示している。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	自由社（新しい歴史教科書）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章末に「対話とまとめ図のページ」を設け、基礎、基本的な知識の定着を図ることができるように配慮がなされている。</li> <li>・各章末に「調べ学習のページ」を設け、生徒の思考力、判断力、表現力等が育成できるように配慮がなされている。</li> <li>・文章量が増えすぎないように資料や解説等を適宜入れ、歴史全体を俯瞰し、生徒が主体的に学べるように配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開き2ページを1時間の授業として展開し、解説および写真や図版の説明を設け、生徒が理解しやすいように工夫がなされている。</li> <li>(2) 男女のキャラクターのセリフによって学習のポイントを示唆し、関心・意欲を高めながら、追究できるように適切に工夫がなされている。</li> <li>(3) 「時代の特徴を考えるページ」では、作文、意見交換会などの学習活動を提起し、学んだことを自分で構造化する活動を通して、意欲的な追究ができるように工夫がなされている。</li> <li>(4) 巻末に「日本の歴史の特色は何か」というページを設け、6つの課題に対して歴史的な見方・考え方を働かせて課題に取り組むことができるように工夫がなされている。</li> <li>(5) 本文を補足し、発展させる資料や図版を配置したり、写真などの図版を大きなサイズで掲載したりするなどして、適切に配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒が課題意識をもてるような学習課題を設けるなどの配慮がなされている。</li> <li>(2) 各章末の「まとめ図」と章の冒頭の「予告編」を繋げて掲載し、連続的に学習が展開しやすいように配慮がなされている。</li> <li>(3) 「時代の特徴を考えるページ」では、さまざまな問題に取り組むことを通して、歴史的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に学習が進められるように工夫がなされている。</li> <li>(4) 「もっと知りたい」や「人物クローズアップ」、「外の目から見た日本」などのコラムを設け、さまざまな人物や社会的事象について興味や関心が向くように配慮がなされている。</li> <li>(5) 欄外に年表を置き、「モノサシ年表」でどの時代を学習しているのかが明確に意識できるように工夫がなされている。</li> <li>(6) 各章末に「復習問題のページ」を設け、学習したことを振り返り、整理することができるように配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラクターのセリフや学習課題が書かれているため学習することが明確になり、主体的な学習になるように工夫がなされている。</li> <li>・各章の章末に四つの「ページ」を設け、生徒の意欲・関心を高めながら、単元を振り返り、まとめができるように工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 育鵬社（新しい日本の歴史）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの時代を大観することで、歴史の大きな流れを理解できるように配慮がなされている。</li> <li>・「学習のまとめ」では、自分なりに歴史学習を振り返り、思考・判断・表現の力が育成できるように配慮がなされている。</li> <li>・「歴史ビュー」では、多角的な視点からの見方を示し、主体的に追究できるように配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  { 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 }	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開き2ページを1時間の授業として構成し、学習課題を明示して学習内容の理解を深めることができるように工夫がなされている。</li> <li>(2) 「導入資料について考えるきっかけとなる問い」「導入資料」「学習課題」「本文」「資料・コラム」を掲載し、主体的に学習を進められるように工夫がなされている。</li> <li>(3) 「TRY!」のコーナーでは、グループでの対話的な学習活動を促し、話し合ったり調べたりして思考を深められるように工夫がなされている。</li> <li>(4) 「学習のまとめ」では、各時代を年表で整理し、歴史的な見方・考え方を働かせて、多面的・多角的にまとめられるように配慮がなされている。</li> <li>(5) 折れ線グラフは凡例を使用しないで図中に直接示したり、線種を変えたり、地図は色分けしたり地紋を入れたりするなど、生徒が資料を読み取りやすくなるように配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  { 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 }	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各章の冒頭に「歴史絵巻」を設け、イラストやフキダシの問いで「鳥の目」で歴史を大観する学習が展開しやすくなるように配慮がなされている。</li> <li>(2) 序章に「歴史の流れと先人の活躍」を設け、小学校で学んだ歴史人物を振り返ることで、中学校の学習へのスムーズな接続ができるように配慮がなされている。</li> <li>(3) 「歴史ズームイン」「歴史ビュー」では、本文の内容に関連する情報や解説が掲載され、多角的・多面的に歴史的な事象をとらえることができるように配慮がなされている。</li> <li>(4) 「人物クローズアップ」では、生命の有限性や自然の大切さを理解できるように工夫がなされている。</li> <li>(5) 図版資料に通し番号を付け、本文の対応する箇所に図番号を表示したり、見開きで学習する時代や年代を示す年表を示したりして、見やすい構成になるように適切に配慮がなされている。</li> <li>(6) 見開きページの「探究」や章末の「学習のまとめ」、巻末の「歴史学習のまとめ」には生徒が自分の考えを表現できるように工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本の美の形」や「歴史絵巻」を設け、生徒が視覚的に興味や関心をもって取り組めるように工夫がなされている。</li> <li>・歴史上の人物の活躍を紹介し、生き方や人間的魅力を学ぶことを通して、道徳心を培うように工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 学び舎（ともに学ぶ 人間の歴史 中学社会 歴史的分野）
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「章をふりかえる」を設け、年表や地図を活用してできごとを関連させながら基本的な知識の定着ができるようにしている。</li> <li>・「学習のまとめ」を設け、時代の特色と時代の転換をふりかえりながら大観し、各時代の特色を多面的・多角的に思考できるように配慮されている。</li> <li>・歴史研究に基づく多様で興味深い歴史の事実を本文や図版に表すことで、生徒が問いや疑問をもち主体的に学べるように配慮がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>（本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開き2ページを1時間の授業として配列し、人々の営みから社会のしくみに目を向けられるような工夫がなされている。</li> <li>(2) 指導的な立場の人物だけでなく、子どもや若者の生き方について取り上げ、生徒の関心と共感を高めながら学習できるように工夫がなされている。</li> <li>(3) 見開き2ページの左上に大きな図版を配置し、観察してさまざまな発見や疑問が生まれ、生徒自ら課題をもって学習ができるように工夫されている。</li> <li>(4) 歴史の現場となった各地域の様相・できごとを具体的に記述し、地域の視点から歴史を考えられるように工夫がなされている。地域の文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現することができるように配慮がなされている。</li> <li>(5) 豊富な資料と記述を盛り込めるようにA4判にし、色や線、マークなどを見やすくするために歴史地図やグラフをカラーユニバーサルデザインにするなどの工夫がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>（「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人々の営みに目を向けて、基礎的・基本的な内容をつかみながら学習が進められるように適切に配慮がなされている。</li> <li>(2) 部の冒頭に大きな時代を見渡した学習課題を設定し、章や1時間の授業の内容を、課題意識をもって追究できるように単元構成の工夫がなされている。</li> <li>(3) 各部の「学習のまとめ」では、テーマに応じて学習したことを比較したり関連させたりしながら対話し、考えが深められるように工夫がなされている。</li> <li>(4) 男女平等や感染症、戦争、核兵器などの現代の課題をテーマに取り上げ、歴史を今日の課題と結びつけ、よりよい社会の実現に向けて考えられるよう適切な配慮がなされている。</li> <li>(5) 多面的・多角的な思考を支える統計資料やグラフ、生徒の関心や興味を引き出す大きく鮮明な図版などの工夫がなされている。</li> <li>(6) 各部の最後に「学習のまとめ」を設定し、時代の特色と時代の転換をふりかえりながら大観し、各時代の特色を多面的・多角的に考察して自分の言葉で表現できるよう工夫がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史研究に基づく多様で興味深い事実を本文や図版に表し、それを基に生徒が問いや疑問をもって主体的に学習が進められるように工夫がなされている。</li> <li>・人類の営みを大切に、その姿から感動を引き出し、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を培えるように工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	令和書籍（国史教科書 第7版）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史について知識や文献資料等豊富に記載されており、日本の歴史について深く知識を学ぶことができる。</li> <li>・「考えよう」を追究することで、思考力、判断力、表現力の育成を図ることができる。</li> <li>・我が国の歴史に対する愛情を喚起し、歴史上の人物を尊重しようとする配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本の歴史について詳細に記載されている。歴史に興味・関心がある生徒にとっては学習を深く追究できる内容になっている。</li> <li>(2) 注釈やコラムがたくさんあり、歴史的事象に関わる挿話を知ることができる。生徒の関心・意欲を喚起する配慮がなされている。</li> <li>(3) 「ディベートをしてみよう」「ディスカッションをしよう」では議論の進め方等が説明されており、対話的な学習を促す工夫がなされている。</li> <li>(4) 「展覧会に行こう」では調査の方法やまとめ方が示され、生徒が主体的・対話的に学習が進められるように配慮がなされている。</li> <li>(5) 巻末資料では、地図資料や美術品がカラーで大きく印刷されており、さらに深く学ぶことができるよう配慮されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な内容に加え、発展的な内容も多く記載されており、深く学びたい生徒の学習意欲に応えられる内容になっている。</li> <li>(2) 日本の歴史の流れに沿って単元が構成されており、歴史上の推移や因果関係を詳細に解説しており、歴史的事象のつながりを意識できるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 歴史的事象に対して個々に課題が設定されており、生徒が主体的に学習に取り組み、社会的な見方・考え方を深められる。また、「考えよう」によって社会的事象の特色や関連、意味を多角的に考える力を養うよう配慮されている。</li> <li>(4) コラムにおいて、社会に見られる課題や歴史的事象に対して筆者の考えが示されており、複数の立場や意見を選択・判断する力を養う配慮がなされている。</li> <li>(5) 適所に厳選された資料が記載されており、生徒が「歴史的な見方・考え方を働かせたり、歴史的事象に対する理解を深めたりすることができるよう配慮がなされている。</li> <li>(6) 各時代の「まとめ」のページでは、「政治」「文化」「外交」「産業」の四つの視点に対して問題や課題が設定されており、振り返りの際の視点が明確になっている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の歴史の流れを詳細に解説し、深い理解を通して我が国の歴史に対する愛情や人間性の涵養を育む内容となっている。</li> </ul>

社 会（公民的分野）

東 京 書 籍

教 育 出 版

帝 国 書 院

日 本 文 教 出 版

自 由 社

育 鵬 社

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	東京書籍（新編 新しい社会 公民）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理・歴史で付けた力をもとに、具体的な社会的事象や多様な資料の活用を通して、必要な知識や技能を身に付けられるよう適切に配慮がなされている。</li> <li>・現代的な諸課題について五つのテーマで考察し、多面的な思考力や公正な判断力、豊かな表現力を養うことができるよう適切に配慮がなされている。</li> <li>・「18歳へのステップ」のページを設け、主権者意識を高め、主体的に社会に参画する態度を養えるよう適切に配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本文は見開き2ページで1時間を原則にしており、平易で具体的な表現を用いたり、漫画やイラストなどを掲載したりするなど、生徒の日常生活や発達段階にあった学習となるよう適切に配慮がなされている。</li> <li>(2) 第1章では、身近なまちのイラストから興味関心をもって公民の学習が始められるようにし、各章の「導入の活動」では、シミュレーションを利用した活動を用いて単元を貫く探究課題をつかめるよう大変適切に工夫がなされている。</li> <li>(3) 各章の「まとめの活動」では、思考を整理するさまざまなツールを用意して学びを深められるようにし、「みんなでチャレンジ」では、小集団での参加型学習による対話的な活動を効果的に実践できるよう適切に工夫がなされている。</li> <li>(4) 1時間の導入資料と、見方・考え方を効果的に働かせて読み取る視点を示すコーナーの内容が一致しており、社会的事象を多様な視点で捉え、より深い学びにつながるよう大変適切に配慮がなされている。</li> <li>(5) ユニバーサルデザインフォントやカラーユニバーサルデザインを採用し、資料部分に背景色を入れて本文との区別を明確にしたり二次元コードを定位置に掲載したりして、読みやすく必要な情報が探しやすいよう適切に配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小学校や地理・歴史のふり返り資料にはマークを付し、既習内容を生かしたり、3分野を関連させたりしながら展開できるよう大変適切に配慮がなされている。</li> <li>(2) 単元全体を貫く「探究課題」を設定し、1時間の「学習課題」と「探究課題」をつなぐ「探究のステップ」から「探究課題」を解決する、という構成で、単元全体を貫く問いを軸に単元を展開できるよう適切に工夫がなされている。</li> <li>(3) 1時間の最後に行う「チェック&amp;トライ」が設定され、本文からのぬき出しや説明などを通して1時間の学習内容をまとめる活動を行い、着実に思考力、判断力、表現力等を高められるようになっている。</li> <li>(4) 「環境・エネルギー」「人権・平和」「防災・安全」など5つのテーマを重視して「もっと知りたい！」のコーナーを設けることで、現代的な諸課題の解決に主体的に取り組む態度を育成できるよう大変適切に配慮がなされている。</li> <li>(5) 端末で読み取ることができる多彩なQRコンテンツが用意され、該当箇所「Dマーク」を付し、多面的・多角的に展開できるよう適切に工夫がなされている。</li> <li>(6) 各章の「まとめの活動」では、知識の確認をする「確かめよう」学習内容を整理する「ふり返ろう」考えを整理する「深めよう」を設け、それぞれに評価の観点を明示し、関連がわかりやすいよう大変適切に工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の活動で「探究課題」を設定し、1時間ごとの学習課題を追究することで探究課題を解決する、課題解決的な学習になるよう適切に工夫がなされている。</li> <li>・多様な思考ツールをまとめの例とともに掲載し、QRコンテンツとしても用意され、自分なりの方法で思考を整理できるような適切に工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	教育出版（中学社会 公民 とともに生きる）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問い」を軸にして課題解決的に追究していく構成で、主権者・市民として必要な知識及び技能の定着が図られるよう配慮がなされている。</li> <li>・「公民の技」で対話的な学びを促す活動例を紹介して、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう適切に配慮がなされている。</li> <li>・現代の諸課題が反映された事象を基に課題解決に取り組むことで、社会に参画していく意識や態度を涵養できるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開き2ページで1時間の構成となっており、見開きごとに「学習課題」が示され、授業の展開や学習の見通しをつかみやすいようになっている。</li> <li>(2) 各章の導入では「ウォーミングアップ！公民」として生徒の生活経験から興味・関心をもって学習が始められるようにし、1時間ごと写真を中心とした資料を位置づけ、読み取る視点を「LOOK!」に示して学習の見通しがもてるようになっている。</li> <li>(3) 1時間の最後に行う「表現」が設定され、社会的事象や課題などに関わる説明や話し合いなど、言葉で表現したり対話したりすることで深い学びにつながるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 生徒の興味・関心を喚起するコラム「公民の窓」39編を配置し、多面的・多角的な見方を身に付けられるよう適切に配慮がなされている。</li> <li>(5) 教育のユニバーサルデザインの実現にむけ、より多くの生徒が学びやすいように、レイアウトや配色、書体など、配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開きごとに「学習課題」と「確認／表現」を設け、基礎・基本が身につくような構成となるよう適切に配慮がなされている。</li> <li>(2) 章ごとに導入ページ、本時ページ、特設ページ、振り返るページで構成され、「問い」を軸にした一連の学習活動を展開することで内容のまとまりごとに指導できる構成となるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 特設ページに「TRY!」のコーナーを設け、社会の諸課題を捉え、その解決に向けて協働しながら多面的・多角的に考察する学習活動を展開できるようになっている。</li> <li>(4) 地域から平和への願いをつなぐ人々の姿に学んだり、地域のために私たち住民ができることは何かを考え、提言したりするページを設け、社会と主体的に関わるきっかけにできるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 見開きごとに「THINK!」のコーナーを設け、多様な資料の読み解きについて、問いを手がかりに取り組み資料を活用する力をつける展開になるよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 各章末のまとめは、知識及び技能の定着を図る「HOP!」思考ツールを活用して章の問いに答える「STEP!」未来のためにできることを考える「JUMP!」の3段階で構成し、3観点を評価できるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「SDGsの17の目標の達成に向けて、いま私たちに何ができるか」を大きな柱の一つに据え、各教材とSDGsとの関連が有機的に図られるよう、見開きごとSDGsを示すよう工夫がなされている。</li> <li>・13の「特設ページ」は、各章と結びつく今日的な課題について、持続可能な社会に向けて多面的・多角的に考察し、表現する学習活動を設定できるよう工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 帝国書院（中学生の公民 よりよい社会を目指して）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味もてる導入から学習の振り返りまで構造化された展開に、より基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られるよう適切に配慮されている。</li> <li>・各時間に言語活動が位置付けられており、繰り返し行うことで、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう適切に配慮がなされている。</li> <li>・学習した内容を活用する学習活動を多く設けることで、主体的に学習に関わる態度を養うことができるよう適切に配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  [ 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 ]	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本文は具体的な例示や社会的事象の背景などが平易な表現で書かれている。図や写真への参照指示や重要な語句の解説が記載され、効率よく学習できるよう適切に工夫がなされている。</li> <li>(2) 章ごとに「学習の前に」でイラストを読み解く活動を通して、学習内容に対する興味・関心を高めやすい。また、章や節ごとに問いが段階的に設けられることで、見通しをもって学習に取り組めるよう、大変適切に工夫されている。</li> <li>(3) 各時間の導入資料は、身近な題材を大きな写真や資料で提示することにより興味・関心を引き出し、対話活動を通して学習課題につなげることで、実感をもち主体的な学習ができるよう適切に工夫がなされている。</li> <li>(4) 「アクティブ公民」では、追究の際に働かせる「現代社会の見方・考え方」が明示され、複数の資料を読み解きながら社会の課題の解決策について考察を深められるよう適切に配慮がなされている。</li> <li>(5) 文字はユニバーサルデザインフォントが、資料はカラーユニバーサルデザインに配慮した色調が用いられている。図表の周囲をグレーで囲い、同一資料であることの判別がしやすいなど、適切に配慮されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  [ 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 ]	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基礎的・基本的な内容を習得した上で、未来に向けて、社会参画を促すよう適切に配慮がなされている。</li> <li>(2) 「章の問い」、「節の問い」、各時間の「学習課題」が連続的に配置され、各時間の振り返りが節の問いにつながるなど、適切な単元構成になっている。</li> <li>(3) 全編を通じて、「現代社会の見方・考え方」を働かせられるよう工夫され、章の振り返りでは図表や思考ツールを用いて自分の考えを整理し、意見交換をして考えを深められるよう適切な配慮がなされている。</li> <li>(4) 「未来に向けて」では、今日的な課題を多く扱い、写真やグラフから社会の課題に気づくことで、SDGsへの意識を育むとともに、その後の社会への意識づけができるよう適切な工夫がなされている。</li> <li>(5) デジタル教科書では、総ルビや白黒反転、読み上げ機能に加え、学習ツールなども活用でき、インクルーシブ教育や個別最適な学び、協同的な学びがしやすいよう適切な工夫がなされている。</li> <li>(6) 「学習の前に」や「学習を振り返ろう」を活用し、習得した知識・技能や、それを活用した思考・判断・表現を見取るなど、指導と評価の一体化がしやすいよう大変適切に工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会の実現に向け、主体的に社会に参画する意識を育むことがテーマとなっており、実社会に興味もてるよう身近な事例が適切に扱われている。</li> <li>・社会参画を疑似体験できるシミュレーション型の課題や対話を通して、主体的、対話的で深い学びが実現できるよう適切な工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 日本文教出版（中学社会 公民的分野）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「章のまとめをしよう」のページで章末の概念図や資料を読み取る技能と関連付けながら基礎的事項を習得できるよう、適切な工夫がなされている。</li> <li>・現代社会の見方や考え方を使って本時の学習課題を多面的・多角的に考察したり、単元全体を見渡したりできるよう、適切な工夫がなされている。</li> <li>・「社会参画や社会の課題に取り組むページ」や「アクティビティ」といった学習活動が仕込まれていることで自ら進んで社会とかかわろうとする資質・能力を育める配慮が、適切になされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開き2ページで1時間の授業の流れに沿った構成で、平易な表現を用いたり、身近な例を題材にしたイラストを用いたりすることで、より自分事としてとらえられるよう、適切な配慮がなされている。</li> <li>(2) 「学習のはじめに」では、ここで何を学ぶのか、どうして学ぶのかが生徒の日常生活に寄せながらイラストとともに考えられるようになっており、興味・関心を高められる工夫が、適切になされている。</li> <li>(3) 「アクティビティ」では、身近な社会的事象をもとにグループでの対話や資料の読み取りといった活動を通して、社会的な見方・考え方を働かせられるよう、大変適切に配慮がなされている。</li> <li>(4) 学習課題を追究していくための手立てとして「見方・考え方」の項目が設けられていることで、生徒が自ら社会的事象を多面的・多角的にとらえることができるよう、適切な配慮がなされている。</li> <li>(5) 本文にはユニバーサルデザインフォントを使用したり、重要語句へのルビふりをしたりする視覚的な配慮がされている。また、「学習課題」「確認」「表現」の色を見出しの色と変えることで、同じ見開きのページ内でも関連性を見分けられるよう、適切な配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小学校の学習内容を振り返ったり、関連させたりすることができるように各章の始まりの部分に小学校で登場する重要用語を示すといった工夫が、適切になされている。</li> <li>(2) 各編において「単元を貫く問い」が設けられており、それを追究・解決するための手がかりとして各章や各節にも、それぞれ問いが設けられている。これにより主体的で深い学びにつながるような配慮が適切になされている。</li> <li>(3) 二次元コードのポートフォリオを活用して、問いや自らの気づきを記入できるようになっており、生徒が自ら課題をたて、主体的に追究していくとする必要感をもたせられるような手立てが適切に工夫されている。</li> <li>(4) 社会参画や現代社会の課題に関するテーマを考えられるページが随所に設けられており、時事的な話題や新聞記事をもとにしながら、学習内容と実社会での出来事とがリンクさせられるよう、適切に工夫がなされている。</li> <li>(5) 冒頭の写真やイラスト、キャラクターの吹き出し、構造図などを通して、毎時間の学習課題がどうして「問い」として成立するのが分かるよう適切に工夫がなされている。</li> <li>(6) 1時間ごとに学習事項の振り返りや知識の活用、思考力・表現力の育成を図れるように「確認」「表現」の項目が設けられた構成になっているため、指導と評価の一体化がしやすくなる工夫が、大変適切になされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な社会的事象や現代社会の仕組みや課題に対して、社会的な見方・考え方を働かせて追究ができるように、適切な工夫がなされている。</li> <li>・イラスト、構造図、思考ツールを適材適所に用いることで、単に生徒が知識・技能の伸長を図るだけではなく、思考力・判断力・表現力の育成と学びに向かう力・人間性等の涵養が図れるよう適切に配置されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 自由社（新しい公民教科書）
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な事項について複数の単元で重ねて学習し、段階的に知識及び技能を習得することができるように構成されている。</li> <li>・学習内容を発展させられる問いが各章の終わりに複数設けられており、その章で学んだことに対する自分の考えをさらに深め、表現力を高められるよう配慮がなされている。</li> <li>・主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養や、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする意欲を高められるような配慮がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>（本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見開き2ページで1時間の授業が構成できるように、1ページあたりの情報量を精選し、学習内容がとらえやすくなるよう適切に配慮されている。</li> <li>(2) 「もっと知りたい」のページが随所に挟み込まれており、学習内容に対する関心や自ら学ぼうとする意欲を高められるよう配置されている。</li> <li>(3) 「アクティブに深めよう」のページでは、今日的な諸課題について主体的・対話的に自らの考えを深めていけるような構成になっている。</li> <li>(4) 「ミニ知識」や「もっと知りたい」といった充実したコラムの中には、歴史分野や地理分野とのつながりが意識できるような話題があり、社会的な見方や考え方を広げられる配慮がされている。</li> <li>(5) 1ページあたりに掲載されている写真や図表が精選されているため、1つ1つの資料や本文のフォントが大きく表示されており、どの生徒にも見やすいよう適切な配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>（「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基礎的事項を厳選し、体系的に整理することで、単元構成が分かりやすくなるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 見開き2ページの学習内容に対する問いと「ここがポイント」で1時間ごとの学びを積み上げていき、章末の「学習のまとめと発展」で大きな単元での学びを整理することで、問いの積み重ねによって単元を構想できるようになっている。</li> <li>(3) 「やってみよう」の部分では、学習内容についてより多面的に追究ができるような活動になっている。また「ミニ知識」では学習内容に関わる現代的な課題に言及しているコラムもあり、多面的・多角的な見方を養えるよう、配慮がなされている。</li> <li>(4) 「もっと知りたい」や「アクティブに深めよう」を通して時事的な話題を学習内容と関連付けたり、自分事として社会的事象をとらえたりしながら、解決をしていこうという態度を育てることができよう、工夫がなされている。</li> <li>(5) 法令集では比較的豊富な種類の法令が紹介されており、学習内容に応じて確認したい法令を、同じ教科書を使って確認することができる配慮がなされている。</li> <li>(6) 見開き2ページの最後に提示されている「ここがポイント」では、1時間の学習内容が箇条書きで端的にまとめられており、授業の振り返りがしやすいよう、工夫がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統的や先人たちの工夫に関するコラムや資料を通して、公民としての資質・能力が育まれるよう配慮がなされている。</li> <li>・精選された学習内容で構成されているが、発展的な問いもあり、社会的事象の特色や、関連、意味を深く考えられるように構成されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	育鵬社（新しいみんなの公民）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会に貢献できる日本人としての公民的資質の育成に向けて、必要な知識及び技能の習得につながる学習内容になるよう配慮がなされている。</li> <li>・現代社会の理想と現実について本文と豊富な資料を提示することで、思考力、判断力、表現力が養われるよう配慮がなされている。</li> <li>・各章の導入の言語活動や章末に未来の姿を構想する課題などを設けることで、生徒が主体的に社会形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習課題をつかむ・調べる・まとめるための資料がそれぞれ見開き1単位時間の紙面にまとめてあり、学習の中で課題を設定、追究、解決できるように配慮がなされている。</li> <li>(2) 各章の最初に「入口」、最後に「これから」というページを設け、各章で学ぶことや学んだことを生活と関連付け、興味・関心をもったり、思考を深めたりできるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「入口」「これから」「やってみよう」のページでは、考えたり、話し合ったりする活動を通して、主体的かつ対話的に追究できるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 学習資料の活用を促す「資料活用」、考えたり調べたりする「見方・考え方」、発展学習の「TRY!」が適宜設定され、学びが深まるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 見開きの最初にセリフ入りのイラストを使ったり、図版資料に通し番号を付けたりすることで、必要な資料を確認しやすいよう配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 身近な社会的事象を各章でバランスよく取り上げ、自分の生活と関連付けて考えられるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 「入口」のページに、章の中でどのような学習を展開していくのかのきっかけを示すことで、単元の学習の見通しをもちながら、主体的に学習できるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「スキルアップ」では、発表や議論のしかた、ディベート等を取り入れ、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう工夫されている。</li> <li>(4) 写真や新聞記事を用いて、防災や情報、SDGsなど、日本と世界の抱える課題に関する幅広い教養が身に付けられるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 図版資料に通し番号を付けたり、語句の説明を簡潔にまとめたりして、指導する際に具体的に示せる工夫がなされている。</li> <li>(6) 章ごとに「学習のまとめ」を設定し、その章の学習内容が簡潔に分かるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な社会的事象を基にした導入とまとめを設定し、現代社会を自分事としてとらえ、社会参画の資質を育む工夫がなされている。</li> <li>・各章の基本構成が、課題を「つかむ、調べる、まとめる」問題解決型学習を行う中で、それぞれの資料をバランスよく配置し、知識・技能、思考・判断・表現の一体化が図られている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

地 図

東 京 書 籍

帝 国 書 院

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 東京書籍（新編 新しい社会 地図）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界や日本の諸地域の外観に役立つ自然、産業、人口等の主題図を設け、基礎的・基本的な知識を習得できるように工夫されている。</li> <li>・テーマ資料では、地理的分野の探究課題に沿って学習する際に活用できる資料が取り上げられたり、「ジャンプ」では、関連する資料を参照することができたりするなど学習効果が高まるように適切な工夫がされている。</li> <li>・テーマ資料にはSDGsのロゴがつけられており、現代社会の諸課題を捉え、解決に向けた態度を養えるように工夫されている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習内容に沿った分量の資料が掲載され、程度や範囲は学習指導要領に示された内容を基に大変工夫して構成されている。</li> <li>(2) 世界や日本の諸地域に関連するテーマ資料が体裁よくまとめられており、「Bee's eye」に取り組むことで地図を活用しながら学習に取り組めるように工夫されている。</li> <li>(3) A4判と大きな地図帳で、写真やグラフを大きく掲載し、フラットデザイン、ユニバーサルデザインフォントを採用し、誰もが見やすく使いやすい配慮がされている。</li> <li>(4) 世界や日本の様々なテーマ資料、地域の特色が分かる写真が掲載され、それらに関連づけて思考を深めていけるよう配慮されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  （「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地理的分野の教科書の構成に準じた構成がされており、各種資料は、一般図→各地域共通資料→各地域独自資料が掲載され、学習の展開に合わせた工夫がされている。</li> <li>(2) 各地域の資料、環境問題などテーマに沿った資料が豊富に掲載され、学習内容と関連させて考察できるように適切に工夫されている。</li> <li>(3) SDGsの一覧の掲載とその関連が示され、現代社会の諸課題についての資料が豊富に掲載され、課題解決に向けた態度が養われるように適切に配慮がされている。</li> <li>(4) 世界の生活・文化を示す写真や、土地活用の変化などを比較できる資料が豊富に掲載されており、「Bee's eye」に取り組むことでより地図を活用しながら学習効果が高められるよう適切に工夫がされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種資料を大きく掲載し、色覚特性のある生徒にとって判別しやすい色使いを採用して、生徒が読み取りやすいよう配慮がされている。</li> <li>・土地利用の変化を比較して思考を深められる資料が多く掲載され、デジタルコンテンツを活用することで学習を深められるよう工夫されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 帝国書院（中学校社会科地図）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界や日本の地図、様々な統計資料、様々な視点からの資料を掲載することで、幅広い知識を身につけることができるように工夫されている。</li> <li>・「地図で発見！」で、地図や資料の活用例を示し、地形や歴史的背景といった地域的特色について考えたり発表したりしやすいように適切な工夫がされている。</li> <li>・様々な種類の地図や写真、イラスト、デジタルコンテンツ等を豊富に記載することで、地域的特色に興味・関心をもって学習に取り組むことができるように適切な工夫がされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地名や地域区分を見やすく示し、各国・各州の気候や衣食住の様子等をイラストやグラフを適切に配置することで、地域的特色が読み取りやすいように大変適切に工夫がされている。</li> <li>(2) 様々な種類の地図や資料を掲載するとともに、「地図で発見！」で活用例を示したり、関連のある分野を示したりすることで、多様な学習で活用できるように大変適切に工夫がされている。</li> <li>(3) 全体的に色使いが明るく、地図と統計資料は明確な区切り線で分けたり、統計のページでは、数字の色分けや点線の区切りなどを用いたりして、見やすいように大変適切に工夫がされている。</li> <li>(4) 統計資料には最新の値が掲載されており、また各分野の学習内容に合わせた統計グラフなどを掲載するなど、関連づけて思考を深めていけるよう適切な工夫がされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 世界の環境問題や伝統的な生活・文化などの資料とともに、地域によって異なる産業の様子や、特色のある事象に沿って地図や資料が配置されており、授業の展開に効果的に活用できるように、適切な工夫がされている。</li> <li>(2) どの地域も、地図の次のページに地域の特色を表す資料が示されており、様々な視点の資料図を同じ縮尺で並べて掲載することで、関連づけて地域的特色を考察できるよう大変適切な配慮がされている。</li> <li>(3) 地域ごとに日本との結びつきが地図やグラフなどを使った資料で示されている。巻頭でSDGsについて特集し、世界情勢を反映させた拡大地図や日本の防災・観光についての資料を掲載するなど、最新の社会的事象や課題について、考えられるように適切な配慮がなされている。</li> <li>(4) 地図ページの中には国旗や「地図活用」、中心地の拡大地図や特色を表す写真など、地域の特色を一目で捉えられるよう工夫され、多様な地図や資料を見開き2ページ内に収め、活用例を「地図で発見！」で示し、日本の歴史に関する年表も掲載することで、分野を横断した学習展開にも生かせるよう適切な工夫がされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な資料図を同縮尺で掲載したり、イラストを豊富に利用した鳥瞰図を掲載したり、デジタルコンテンツを充実させたりすることで、比較したり関連付けたりしながら思考を広げられるように大変適切な工夫がされている。</li> <li>・地図帳を通してSDGsを考えられるよう7ページにわたり最新の世界情勢を反映させた地図を掲載して、世界の諸課題に目を向けられるように工夫がされている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

数 学

東 京 書 籍

大 日 本 図 書

学 校 図 書

教 育 出 版

啓 林 館

数 研 出 版

日 本 文 教 出 版

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	東京書籍（新編 新しい数学 ～MATH CONNECT 数学のつながり～）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し学習ができる問題や典型的な誤答例がある構成で、知識及び技能が習得できるように配慮がなされている。</li> <li>・数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して考察する力や数学的に表現する力が高まりやすいように工夫がなされている。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って評価・改善する態度や数学的な見方・考え方を働かせる態度が養えるように工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) つまづきやすい生徒への手立てやより力を高めたい生徒への補充問題を充実させたり、章末問題を段階別に設けたりするなど、自分の力に合わせた学びができるように配慮がなされている。</li> <li>(2) 身の回りの場면을元に、章全体で問題発見・解決の過程のサイクルを意識して追究していくことで、興味・関心をもち学べるように工夫がなされている。</li> <li>(3) 問題発見・解決の過程を重視した数学的活動に取り組むことで、身の回りの事象や数学の事象から問題を発見したり解決したりする能力を高められるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 基礎的・基本的な内容の理解をより確かなものにし、問題解決で働かせた数学的な見方・考え方を他の問題で生かせるように配慮がなされている。</li> <li>(5) 色覚特性に適応するデザインや見やすく読み間違えにくいフォントを使用し、分かりやすく読みやすいように配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各章の扉において、章の見出しだけでなく問題場面と問い、学習内容を示すことで、育成を目指す数学的に考える資質・能力が明確になるように配慮がなされている。</li> <li>(2) 既習事項を関連付けたり、系統化したりすることで、問題解決で働かせた見方・考え方や表現力が高まるように配慮がなされている。</li> <li>(3) イラストの生徒の会話や、各章で利用の問題での見出しによって数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的な活動を促すように工夫がなされている。</li> <li>(4) 学習に関連した読み物や他教科と関連のある題材、数学を社会に活用している人を紹介し、それらに関わる発展的な問題を示すことで、数学のよさや有用性を実感できる工夫がなされている。</li> <li>(5) 生徒の問題意識を提起する場面において、二次元コードを配置するなど、生徒の問題理解や追究に生かせるように工夫がなされている。</li> <li>(6) 囲みや虫眼鏡マーク、色の統一で、基礎的・基本的な知識や問題解決のときに大切にしたい見方・考え方が明確になるように配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題発見・解決の過程を提示したり各問題だけでなく章全体を問題発見・解決の過程で生徒の意識をつなぐように構成したりすることで、知識及び技能が身に付き、思考力・判断力・表現力が高まるように工夫がなされている。</li> <li>・単元末に、単元を通して働かせた数学的な見方・考え方を振り返ることができるような工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 大日本図書（数学の世界）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識や技能が確実に身につけられるように、既習事項と関連させ、繰り返し学習ができるよう配慮がなされている。</li> <li>・既習事項と結びつけ、ひろげて考えるような課題を取り入れるなど、発展的に考察する力が養える配慮がなされている。</li> <li>・巻末の「課題学習」で、これまでに学んだ数学を生かして考える課題の例が示してある。生徒が数学を学ぶことの楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えようとする配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各節の導入場面では、事象を図式化したり、具体物の操作や帰納的に考える場面を設けたりしており、既習事項を用いて問題発見・解決する意識を促す配慮がなされている。</li> <li>(2) 導入では既習事項との関連を重視した課題を設けており、既習事項をもとに、新たな学習へ興味・関心をもって取り組めるように工夫がなされている。</li> <li>(3) 問題発見から問題解決までの流れを、「問題を見いだそう」「解決のしかたを探ろう」「解決しよう」「深めよう」の4つのステップで示し、解決の過程を意識しながら数学的活動へ取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 側注にある「思い出そう」に既習事項が記載してあったり、巻末に前の学年までの復習を設けたりしてあり、これまでの学習を振り返りながら基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけられるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 学習の流れが捉えやすい紙面構成や効果的な図で、興味・関心が高まるように配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各章とも、生徒の思考の流れに沿った構成になっている。生徒同士が話し合っている挿絵や写真による場面があり、学習内容を段階的に思考していくことで理解できるように配慮がなされている。</li> <li>(2) 各領域で学年間の系統性を重視するとともに、学年内においても領域間を関連づける構成となるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 「活動」でキャラクターによって数学的な見方・考え方をを用いることを促し、事象を論理的、統合的・発展的に考察できるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 全ての領域において、他の領域と関連付けた基礎的・基本的な定着問題があり、学習内容を補充・発展できるように配慮がなされている。</li> <li>(5) 「活動」には、キャラクターの考え方が挿絵で載っており、生徒が追究の見通しをもち、主体的に取り組むことができるよう配慮がなされている。</li> <li>(6) 巻頭に「ノート の 作り方」が例示してあったり、重要となる学習内容のまとめは枠で囲み強調する配慮がなされたりしている。各章で「章をふり返ろう」が設けられ、まとめや評価が明確になるように配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型の学習の流れとなっており、様々な数学的な見方・考え方を働かせながら言語活動ができるよう配慮がなされている。</li> <li>・数学を学ぶことの意義や有用性が紹介され、日常生活や社会と関連させて興味・関心が高められるよう配慮がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	学校図書（中学校数学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を振り返りながら、基礎的・基本的な内容を繰り返し学習し、知識および技能が習得できるように工夫がなされている。</li> <li>・既習事項を基にして論理的に考察し、数量や図形の性質を見だし、総合的・発展的に考察できるように工夫がなされている。</li> <li>・SDGsと数学を関連づけた場面を取り上げ、これまでに身につけた数学の力を、生活や社会に生かそうとする態度を養えるように工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 見方・考え方を問う場面では、登場人物による具体的な考えの提示があり、それをもとにして、自分の考えをもったり、さまざまな考え方が生み出されたりするよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 単元の中の「Q」において、学習問題を提示し、それに対する様々な解決方法や問いが登場人物のつぶやきとして書かれ、見通しをもって学習に臨めるよう、内容構成への配慮がなされている。</li> <li>(3) 日常の事象から数学を見だし、数学の世界と関係づけながら、主体的・対話的に学習できるように、単元の導入の配慮がなされている。</li> <li>(4) 計算練習の場面では、解決に行き詰まった生徒でも計算過程の見通しがもてるように、解決の手助けとなる内容の二次元コードがあり、既習の学習内容を振り返られるように工夫がなされている。</li> <li>(5) 例題では、符号や計算の順序、特に計算の際に注意すべきところに色がつけてあり、配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各単元とも、既習内容を活用して問題を解き、生活に生かしていくという流れになるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 学習内容が、生徒の理解や発達に即して系統化されており、図、式のまとめ方、補助説明などが理解しやすい手助けとなるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) どのように数学的な見方・考え方を働かせればよいのか、登場人物のつぶやきの形で示されており、それを手がかりとして、友と関わりながら筋道を立てて、論理的・統合的・発展的に考えられるように配慮がなされている。</li> <li>(4) 各章のまとめの問題（基本、応用）の後に活用問題、「深めよう」のページがあり、領域横断、教科等横断的な学習に取り組むことができるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) ユニバーサルデザインフォントを使用するとともに、色使いやレイアウトなど、情報が伝わりやすいように工夫がなされている。</li> <li>(6) 各節の最後に「どんなことがわかったかな」でまとめ、また新たな「次の課題へ」とつながっていくような展開となるよう配慮がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常事象から数学の問題を見出し、数学的な見方・考え方を働かせながら、問題を解決し、SDGsなどに関連づけ、今後、数学を生かしていこうとする力を養う工夫がなされている。</li> <li>・数学的な見方・考え方を働かせた対話が明示され、見通しをもって、論理的、統合的、発展的に学習に取り組めるよう配慮がなされている</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	教育出版（中学数学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識及び技能のよさを具体的な言葉や吹き出しで示し、既習内容と結び付け、問題解決に向けて活用できるよう工夫がなされている。</li> <li>・日常生活の事象を数学化し、数学的活動を通して思考力・判断力・表現力が育成されるよう配慮がなされている。</li> <li>・身近にある問題を取り上げ、問題解決の過程を意識しながら、よりよく物事を解決していく態度を養えるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 問いのつながり方や働かせたい数学的な見方・考え方について整理されており、様々な学習場面で意識できるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 「学びのプロセス」で学習活動の流れを示し、試行錯誤しながら問題を数理的に捉えていく過程を体験することで、課題解決力の高まりを実感できるような配慮がなされている。</li> <li>(3) 主体的・対話的な学習を通して、よりよい解法を見つけようとする態度を育成することができるような配慮がなされている。</li> <li>(4) 各章の前の「学習する前に」や巻末の「学びのマップ」においてこれまでの既習内容とのつながりを確認でき、学習内容のスムーズな定着が図られたり、遡って学び直しができたりするような工夫がなされている。</li> <li>(5) 二次元コードを用いて映像や図形の資料を提示することで、問題把握や条件変えによる発展的な問題に取り組めるような工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各単元で具体的な場面を導入として扱うことで、学習内容の必要感をもたせたり、定着問題によって知識・技能の定着を確認できたりする配慮がなされている。</li> <li>(2) 数学で用いる考え方を提示し、根拠を基にしながら考えたり表現したりすることのよさがわかるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 基礎的な概念を理解した後に、学んだものを活用しながら論理的に考察をして課題を解決し、生活に生かそうという流れを意識した構成になるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 基礎・基本の定着を図る問題や既習内容を発展させた問題など、個に応じた学習に生かせるような配慮がなされている。</li> <li>(5) 挿し絵やノートの取り方のポイント、二次元コードによる映像資料等、個に応じた学習に生かせるよう配慮がなされている。</li> <li>(6) 各章の章末の問題においてそれぞれの評価規準を示し、個々の生徒が自己評価できるよう工夫がなされていたり、各章の振り返りについて例を掲載したりする工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習をつなぐ統合的・発展的な問いを示し、生徒が課題意識を持続しながら主体的に学習を進められるよう工夫がなされている。</li> <li>・「章とびら」で日常生活や社会の事象を扱ったり、「数学しごと人」で社会と数学とのつながりを意識させたりすることで、数学を学ぶ意義や必要性を感じられる工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	啓林館（未来へひろがる数学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な例や既習事項と関連付けたり、補充問題で確認をしたりするなど、知識及び技能を確実に習得できるよう工夫がなされている。</li> <li>・日常事象や数学の場면을数学的な見方・考え方の観点から捉え、論理的、統合的・発展的に考えられるよう配慮がなされている。</li> <li>・数学を積極的に生かそうとする態度や、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 具体から抽象、基礎から発展へとつなげ、基礎的・基本的な内容をスモールステップで展開することで、多様な考え方や数学的な処理の仕方を学べるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 問題発見と解決の過程を段階的に示し、自分で問題を発見したり、解決の過程を振り返って深めたりすることができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) SDGsや現代的諸課題から数学的な見方を用いて問題を発見し、既習事項を活用して解決する道筋を表現する活動への配慮がなされている。</li> <li>(4) 「ふりかえり」での既習内容の学び直しや、章末問題や巻末の問題で、考え方や手順が示された二次元コードがあり、理解度に応じた学びができるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) ユニバーサルデザインフォントの使用、意味や文節による改行など、様々な生徒の特性を踏まえた学習への工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) まとまりのある内容ごとに単元が構成され、活用場面が明示されることで、数学を学ぶ意義や有用性が実感できるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 関連する既習事項や、前後のつながりを重視し、生徒の発達段階に合わせ系統的に学習を進められるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 生徒主体の学習となるように、問題発見・解決の過程で用いる数学的な見方・考え方を示すことで、生徒が数学的な見方・考え方を意識して働かせることができるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 巻末の「数学広場」の「力をつけよう」には補充問題や入試問題、「学びをいかそう」には身の回りで活用する課題が掲載されており、個の探究課題に応じた指導に生かせるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) 用語・記号は明確・簡潔に表すのに有効なものを厳選し、学習場面と関連した写真や、説明を補うための図を配置するなど学習の理解を助ける配慮がなされている。</li> <li>(6) 章末問題のチェック欄での生徒自身の自己評価、巻末の「章のあしあと」での自己の学習の振り返りなど、自己評価や観点別評価の設定に役立てることができるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を発見・解決し、その過程を振り返って評価・改善を図ったり、新たな条件や場を設定したりできるよう工夫がなされている。</li> <li>・「たいせつな考え方」として数学的な見方・考え方を精選・明確にし、数学的に考える資質・能力が育つよう工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 数研出版（改訂版 これからの数学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項をこまめに振り返りながら学習でき、知識や技能を確実に習得できるよう配慮がなされている。</li> <li>・身近な事象の中にある数学に注目できるような題材を取り入れ、数学的な活動を通して思考力・判断力・表現力を養うことができるよう配慮がなされている。</li> <li>・身近な題材を取り入れ、興味をもたせつつ数学に関心を寄せられるようになっており、主体的に学びに向かう態度を養えるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 複数の解法や見方を取り上げ、生徒の多様な考え方を生み出せるように配慮されている。また、既習事項を基に数学的に表現したり伝え合ったりすることを通して、数学的な見方・考え方が働くように配慮がなされている。</li> <li>(2) 身近な題材で生徒の興味・関心を引き出せるようにし、生徒と教師の対話の場面から問題解決に向けた見通しをもったり、解決の過程を振り返ったりする活動ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「社会で生きる数学」でSDGsを多く取り上げ、現実の世界の問題を数学の世界で解決するよさを示すことで、学びを生かそうとする態度を養えるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) どの章でも学習内容に関連する既習事項を系統的に振り返ることができたり、体系的に知識及び技能を確認できたりするよう工夫がなされている。</li> <li>(5) 証明や解法などはフォントを変え、生徒が注目しやすいように工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 既習の考え方との共通点や相違点を取り上げたり、単元を通して同じ教材を続けて用いたりし、連続性をもって学習できるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 各単元で関連する既習事項を取り扱っており、新しく学習する基礎的・基本的な内容が習得しやすいよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 登場人物たちの対話をもとに数学的な見方・考え方を働かせ、既習事項を根拠として問題解決の筋道を立て、論理的・統合的・発展的に考えられるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 章末や巻末に章の内容を確認する問題と発展的な問題を配置し、個の力や関心に応じて内容を補充・発展させられるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 数学的な用語の索引を設けたり、二次元コードから視覚的な理解を支援したりして、主体的な学びを支える指導ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 教科書冒頭の「学習の進め方（数学的な見方・考え方の観点）」「ノートをつくり方」では、まとめ方や学びの振り返り方が理解でき、自己評価を明確にできる工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の対話を手がかりにして、問題解決までの流れをイメージしたり、批判的な考察をしたりするなど、学びを深められるように工夫がなされている。</li> <li>・関数、図形、データの活用の各領域において、情報端末を使って生徒が自ら操作しつつ、見方や考え方を養うことができるように工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 日本文教出版（中学数学）
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元、教材のねらいを小節ごとに「めあて」を示すことで明確にし、既習内容と関連させながら知識及び技能が身に付くよう配慮がなされている。</li> <li>・数学的な表現を用いて論理的に説明し合う学習を設け、思考力・判断力・表現力等を育成できるよう配慮がなされている。</li> <li>・「学びに向かう力を育てよう」で具体例を明示することで、主体的に学習に取り組む態度の涵養への配慮がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一つの問題から生徒の多様な考え方を生かす学習活動を設け、協働的な学びを通して、考える力や説明する力を充実できるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 身近な事象を問題として扱うことで、生徒の興味・関心を喚起し、既習内容と結び付け、数学を学ぶよさや有用性を実感できるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 「学び合おう」では、現実の世界の事柄を取り上げ、示された問題解決の過程をもとに、話し合いを通して学びを深められるように配慮がなされている。</li> <li>(4) 単元前に関連する既習内容を振り返る場面が設けられたり、節末、章末、巻末で繰り返し学習ができるようにしたりするなど、個に応じた学習ができるように工夫がなされている。</li> <li>(5) カラーユニバーサルデザインを使用するとともに、文章が読みやすく、情報を読み取りやすくなるような配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 導入で既習内容や身近な事象と関連付けた学習活動を促し、基礎的・基本的な内容の習得を図った上で指導ができるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 章の構成の一貫性、扱う題材に関連性をもたせ、生徒の発達の段階に応じて段階的に学習が深まるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 「大切な見方・考え方」では、数学的な見方・考え方を明確にし、思考力・判断力・表現力等を育成する指導ができるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 節末や章末、巻末には、基礎的・基本的な知識・技能の定着問題、発展的な内容の問題を掲載し、個に応じた指導ができるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 動画などの視覚的支援が必要な箇所に内容が推測できる分類を付記した二次元コードを提示したり、キャラクターの吹き出しで生徒に追究の見通しをもたせたりして、学習指導に生かしやすいよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 「振り返りシート」「対話シート」では、その学習の場面におけるまとめや評価の観点が明確になるよう工夫がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元で学び直しを重視した内容構成により、個の特性や発達段階に応じて基礎的・基本的な内容の習得を図ることができるよう配慮がなされている。</li> <li>・「問題解決の過程」や「表現の例」の提示などで、生徒が数学的な表現を用いて主体的に学習に取り組んでいけるよう配慮がなされている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

理 科

東 京 書 籍

大 日 本 図 書

学 校 図 書

教 育 出 版

啓 林 館

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	東京書籍（新しい科学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「見方・考え方」を働かせる場面では、具体的な指示がある。また、単元末には「学習内容の整理」、「確かめ問題」、「活用」が設定され、個別の学びに対応できるよう工夫されている。</li> <li>・生徒のつまづきが予想される単元には、「じっくり探究」を設定し、科学的に探究するプロセスへ導くよう工夫されている。</li> <li>・単元の導入には「Before」を設定し、単元を貫く学習問題が設定されている。単元末の「After」を考えることで、思考の変容が確認できるよう工夫されている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) これまで学習した内容を「これまで学んだこと」と記し、記憶の想起を促している。また、本単元で学習する内容を「～で学ぶこと」とし、各発達段階に応じて見直しをもって学習に向かえるよう配慮されている。</li> <li>(2) 身の回りにある事象を「問題発見レッツスタート」と設定し、これまでの経験と目の前の事象との間にズレが生まれる場面を設定している。これにより、自然と探究活動が進むように工夫されている。</li> <li>(3) 仮説や構想など対話を必要とする場面では、対話する挿絵を使って具体的に会話内容を挙げ、生徒が対話活動に入りやすいような配慮がされている。</li> <li>(4) 観察・実験のページには注意を喚起する文字とマークが付されており、手順も動画で繰り返し確認できるため、正確かつ安全な観察・実験を進めることができるよう配慮されている。</li> <li>(5) 1時間の授業が見開きで構成されており、挿絵なども適度に配置され見やすく、ページの行き来が少ない工夫がされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大きな単元の流れは、教材入手時期や実験道具の使用時期を配慮し、更にその中で既習事項からの連続性や発展性が工夫されている。</li> <li>(2) 問題を科学的に解決する場面では、「問題発見」や「自分の考えをまとめよう」でキーワードをもとに自分の考えを整理し、探究活動を促進する工夫がなされている。そのため、解決する課題が明確になり、鋭角的な追究がしやすくなるよう工夫されている。</li> <li>(3) 各自が立案した仮説や予想をもとに、複数の方法から選択できる場面を設けている。多くの QR コンテンツが入っているため、個々の考えをもって観察・実験を行うことができ、更に探究の過程における対話例を掲載し、協働的かつ主体的に学習する態度が育成されるよう工夫されている。</li> <li>(4) ポイントを朱書きにしたり QR コンテンツを該当箇所に入れたりして、観察・実験をより安全に行えるよう工夫している。また、防災・被災教育への対応も単元内に取り入れている。更に、「私たちのSDGs」など学習内容に関連したコラムを豊富に設けるなど工夫されている。</li> <li>(5) 生徒の学びの発展性や連続性につながるよう配慮されている。</li> <li>(6) 教科書中の観察・実験に関する動画を使った CBT 問題や学力定着と向上を図るコンテンツを用意しており、学習した内容を復習し、観点別の評価も行えるよう工夫されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味を引く写真を多数掲載し、身近な現象を用いて探究・思考することで、学びに向かう力を育むよう工夫されている。</li> <li>・各学年の基本概念が年間を通して明確に示されることで、3年間を通じて段階的に必要な力をつけ、探究活動の深まりを実感できるよう工夫されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	大日本図書（理科の世界）
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識及び技能が身に付くように、観察・実験は適切な図や操作のポイントを示す「コツ」マークや、例題や演習、単元末問題が配置されている。</li> <li>・見通しをもって探究し、考察する力を養えるように、観察・実験には「着目点」や「結果から考えよう」を提示し、次ページには「結果の例」と「結果から分かること」が配置されている。</li> <li>・探究心を養うように、各単元末にある「探究活動」や巻末の「自由研究にチャレンジしよう！」では、学習内容に関連するテーマや探究の過程の例が配置されている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) つまづきやすそうな問題については「例題」を掲載し、順を追って解答を導けるよう丁寧に説明している。また、繰り返し学習して定着を図りたい箇所には「演習」が配置されている。</li> <li>(2) 学習の導入では身近な現象や物質が例として提示されており、身近な事象から問題を見いだせるように配置されている。</li> <li>(3) 「話し合おう」や「私のレポート」を設定したり、対話的な学習が生まれる配慮がされたりしている。</li> <li>(4) 観察・実験では、「注意」マークや「コツ」マークで、留意事項や操作のポイントを示している。また、すべての生徒が取り組みやすく、結果を考察しやすいものが配置されている。</li> <li>(5) ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザインの観点による色覚の多様性への配慮、吹き出し内の文章は文節で改行など、すべての生徒に見やすい工夫がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 単元配列が、観察・実験に適した時期、学年によって扱う実験器具が重ならないように配慮されている。</li> <li>(2) 観察・実験に「目的」「着目点」が明記されていることで、見通しをもって学習を進められる。「比べる」「関係づける」「条件を考える」「多面的に考える」等の科学的な考え方を促すような問いかけが配置されている。</li> <li>(3) 「問題を見つけよう」「計画を立てよう」「結果から考えよう」「振り返ろう」のマークや、観察・実験の「目的」「着目点」があることにより、探究の過程に沿って主体的に学習が行えるよう配慮されている。</li> <li>(4) 「注意」マークや、マイクロスケール実験の手法を採用していることで、安全や環境に配慮されている。</li> <li>(5) 場面に応じて写真と図を効果的に使い分け、内容をより理解しやすいよう配慮されている。</li> <li>(6) 基礎的・基本的な知識の定着や、思考力・判断力が身に付くよう「章末問題」や単元末の「まとめ」、「単元末問題」が配置されている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資質・能力を育成するための探究の過程において各学年でとくに重視する項目が明示され、生徒が探究の過程を意識し、見通しをもって主体的に探究できるとともに、段階的に資質・能力を育む配慮がなされている。</li> <li>・ユニバーサルデザインの導入や全ての生徒が取り組みやすい観察・実験を精選、「例題」や「章末問題」で生徒一人一人の歩幅に合わせた構成など、誰にでも使いやすい教科書になるような配慮がなされている。</li> <li>・豊富な写真や、「くらしの中の理科」「Science Press」は、STEAMの各分野と関連しており、実生活や実社会の事物・事象を理科の学習とつなげるだけでなく、様々な角度から捉えて考えられるように配慮がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	学校図書（中学校 科学）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭コラムでは、身近な生活の中で科学的な探究がどのように役立つか解説されており、科学的に探究しようとする態度を養う配慮がなされている。</li> <li>・「探究」の活動で、様々な仮説を検証するための「計画」や、実験結果を分析するための「結果から考察する」場面が設けられ、科学的な思考力・判断力を育成できるよう配慮がなされている。</li> <li>・単元末には、基本的な知識の確認や基本問題を解く活動があり、知識の確実な定着を図る配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各単元のはじめに「ふり返ろう・つなげよう」で既習事項が示され、デジタル教科書の下学年へのページリンクにより復習できるようになっていることで、これから学習する内容との連続性が意識できるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 各探究のはじめに、生徒が解決したくなるような導入場面を親しみやすいマンガで設け、実験・観察ごとに教科書左端に「気付き→課題→仮説→計画→方法→結果→考察」の流れが分かりやすく示されることで、理科の見方・考え方を働かせながら探究を進めていけるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 仮説を設定し計画を立案する場面では、様々な生徒が多様な考えを出し合う様子をふきだして示すことで、対話的な学びができるよう配慮されている。</li> <li>(4) 実験方法の手順、結果例が大きく写真で示されており、注意事項は黄色枠に赤字で大きく書かれていて安全配慮がしやすいよう工夫がなされている。</li> <li>(5) 図やグラフを大きく掲載し、文字種や図の色などをユニバーサルデザインに配慮し、デジタル教科書による多言語、総ルビ・わかち書きへの対応をすることで、全ての生徒にとって学びやすい工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 単元の配列が、それぞれ実験・観察に適した時期になっており、学年によって必要な実験器具が重ならないよう配慮がなされている。</li> <li>(2) どのような「見方・考え方」を働かせていくのかを教科書の下部やコラム「理路整然」で示すことで、問題を科学的に解決できるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) キャラクターによる話し合いで、科学的探究における主体的・対話的な学習の流れを示すことで、主体的・対話的な学びが実現できるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 観察実験の手順が実物写真で大きく示され、巻末の「基本操作」で事故防止に留意した内容が記載されることで、安全面に配慮できる工夫がなされている。</li> <li>(5) 各学年の終末に写真や話題が充実した「補充資料」があり、これにより基本操作を何度も確認し、学んだことが更に深められるよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 各単元のはじめの「Can-Do List できるようになりたい目標」で、その単元で身につけたい知識・技能や科学的思考・判断・表現、学びに向かう姿勢が示されることで、それを意識した学習が進められるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元冒頭の見開きの美しい写真、QRコードからの実験動画や最新の科学系ニュース、巻末の豊富な資料など、資料が多く掲載され、自然の事物・現象への関心を高める配慮がなされている。</li> <li>・コラム「理路整然」では、どのように考えることが適切か、どのようにその考えが日常に役立っているかなど、の話題が豊富に記載され、探究の考え方を知る・深めるための配慮がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	教育出版（自然の探究 中学理科）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「要点チェック」「重要用語の整理」「基本問題」「活用問題」「学年末総合問題」の5段階で、知識・技能の定着が図れるよう配慮されている。</li> <li>・「探究の進め方」に沿った指導が各単元に設定されており、科学的に探究しながら思考力・判断力・表現力が養われるよう配慮されている。</li> <li>・「疑問を見つける」から始まる学習や、「学習前の私・学習後の私」が各単元に設定され、科学的に探究しようとする態度を養うよう配慮されている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「これまでの学習」により、既習事項からの学習の連続性が図られるよう配慮されている。</li> <li>(2) 「ハローサイエンス」により生徒の生活経験や地域性と関連づけたり、「考察する」により科学的な見方・考え方を働かせたりしながら探究できるよう配慮されている。</li> <li>(3) 各単元に「私のレポート」や「話し合おう」の場面が設定され、主体的・対話的な探究ができるよう配慮されている。</li> <li>(4) 実験器具の取り扱いが「学びリンク」としてQRコードで示され、注意を喚起するマークは目立つ色とフォントで、安全性への配慮がなされている。</li> <li>(5) UD フォントやUD カラーを使用し、また文字サイズは学年が上がるにつれて少しずつ小さくなるよう調整することで、全ての生徒にとって読みやすいように配慮されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 単元配列が教材の入手時期や、観察・実験に適した時期になるよう、配慮されている。</li> <li>(2) 課題設定や考察の場面で「生徒キャラクター」が科学的な見方・考え方を働かせて議論する場面が設定され、生徒の科学的な見方・考え方を働かせた学習活動になるよう配慮されている。</li> <li>(3) 考察の場面では「考えよう」の場面を設定し、生徒一人ひとりが自分の考えを持つことの重要性に触れ、主体的な学習を促す配慮がされている。</li> <li>(4) 薬品を使用する場面では、マイクロスケール実験が積極的に採用されており、安全面や自然環境への負荷が軽減されるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) 大きな図や写真、「学びリンク」のQRコードにより資料性が高く、個に応じた学習がしやすいよう配慮されている。</li> <li>(6) まとめの場面には「結論を示す」が設定され、生徒が学習を振り返り、学習内容に関して自己評価しやすいよう配慮されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「探究の進め方」に沿った学習活動が全ての単元で設定されており、生徒の主体的に学習に取り組む態度や科学的な見方・考え方を継続的に育むことができるよう配慮されている。</li> <li>・同じ問いについて考える場面が「学習前の私・学習後の私」として全ての単元で設定されており、生徒が自己の科学的な見方・考え方の変容に気付けるよう配慮されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	啓林館（未来へひろがる サイエンス）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例題や学習のまとめにより基礎的・基本的な知識の定着を図り、QRコンテンツによって、基本的な技能の習得ができるような工夫がなされている。</li> <li>・課題解決の流れを繰り返し、作図やモデル図を描画しながら、探究的な学習を行うことで、科学的な思考力や表現力をつける工夫がなされている。</li> <li>・ダイナミックな自然写真や、日常生活とつながる写真・資料を多く掲載することで、探究心を高め、主体的に学習に取り組める工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘索性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「つながる学び」を設け、既習事項を確認した上で、新たな学習に入るような配慮がなされている。また、「高校化学へ」などの発展的な内容も掲載されており、高校理科につながるような配慮がなされている。</li> <li>(2) 各単元の「学ぶ前にトライ！」や各章のQRコンテンツ「はてなスイッチ」で課題意識をもって学習に入ることができるように工夫がなされている。</li> <li>(3) 各単元に「探Q実験」を設定し、「探Qシート」によって生徒の考えを書き込み、主体的に話し合えるような工夫がなされている。また、「発表してみよう」が設けられ、対話的な学びが行われるように工夫がなされている。</li> <li>(4) 安全に観察や実験を行うための注意を促すマークが設けられており、注意点を朱書きで目立つようにする配慮がなされている。</li> <li>(5) 基本的な文字のフォントにUDフォントが使われており、他にも紙面の内容が判断しやすい配色やデザインが用いられており、全体的に見やすさへの配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 柔軟に単元順序を組みかえられるよう、全学年で生命、地球、物質、エネルギーとなっており、地域の気候特性などへの配慮がなされている。</li> <li>(2) キャラクターの発言に理科の見方・考え方のヒントが入っており、領域ごとの特徴的な理科の見方で事象をとらえ、探究の過程で考え方をはたらかせるように配慮がなされている。</li> <li>(3) 考えを比較したり、他者と協働して実験計画を立案したりする活動場면을例示し、協働的な学びが実現するように工夫がなされている。また、授業での活用を想定したQRコンテンツで、協働的な学びを促す工夫がなされている。</li> <li>(4) 8種類の「安全マーク」によって注意が促され、安全への配慮がなされている。また、少量の薬品を使うなど、環境への配慮がなされている。</li> <li>(5) 写真や図表が大きく配置されており、本文と合わせて読むことで、理解が深まるような配慮がなされている。</li> <li>(6) 「Review振り返ろう」や「ふり返りシート」によって、基本事項の確認や学習をふり返ることで、学びの深まりが実感できるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の流れをわかりやすく示し、見通しをもった主体的・対話的で深い学びを通して、誰もが探究的に学べるように工夫がなされている。</li> <li>・導入の場面や追究の場面、そして学びをふり返る場面で、1人1台端末を効果的に活用できる工夫がなされている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

音 楽（一般）

教 育 出 版

教 育 芸 術 社

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	教育出版（音楽のおくりもの）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習目標が各ページに端的に示され、主となる教材を「比べてみよう」を使い他の教材と比較しながら音楽表現の幅が広がるような工夫がなされている。</li> <li>・「学習 MAP」を使い、学習の進め方や音楽を形づくっている要素を確認しながら音楽的な見方・考え方を働かせて、主体的・協働的な学習ができるよう配慮されている。</li> <li>・多様な教材曲をもとに、比較することにより生徒が曲想や作曲家による違いや特徴を捉え、表現しながら、音楽に対する感性を高めることができるように工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「学習 MAP」に資質・能力が示してあり、各領域相互のつながりを意識して学習に取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 同じ構成の曲を並べて配置し、比較しながら学習を深めるよう設定されており、「Active！」を活用し、生徒同士が対話しながら音楽への理解が深められるよう適切な工夫がなされている。</li> <li>(3) 楽曲の特徴について、個や全体で考えたことをそれぞれ教科書へ直接書き込むことができるようになっており、互いの意見や思いを共有し、理解が深まるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 多種多様な音楽が数多く配置され、聴き比べの活動や QR コードでのワークシートへの記入、他領域とのつながりをもった体験的な活動等を通して楽しみながら、楽曲のよさを感じ取れるように適切な工夫がなされている。</li> <li>(5) 曲の情景を思い浮かべられるような写真やイラスト、メッセージが各所に掲載されており、巻末には楽典や楽器などが折り込みで見やすく表示され、多様な情報を手がかりに学習が進められるよう適切な配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小学校からのつながりを考慮し、学習がスムーズに系統的に進められるような配慮がなされている。</li> <li>(2) 「Active！」では、同じ音楽を形づくっている要素同士を比べる活動により、段階的に学べるよう、適切な配慮がなされている。</li> <li>(3) 鑑賞活動では、同じ作曲家による曲や、曲の形式・構成に注目し、比較鑑賞する活動等を通して、多様な学習ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 「世界や日本の音楽」では、写真を中心に楽器や楽曲が詳しく解説されている。また創作教材も多く、鳥の鳴き声、地域の食材を題材としたリズム創作や「ツ」「ター」など擬音や手拍子を使い、楽器を使わず手軽にできる創作活動を取り入れ、生徒が楽しく表現し、発展的な学習ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) 歌唱共通教材や鑑賞教材では、曲の情景や背景に関わる鮮明な写真を掲載し、生徒の意欲を引き出し、興味・関心をもたせるような工夫がなされている。</li> <li>(6) 比較鑑賞の記録、学習内容等を教科書に書き込めるようになっており、学習の積み重ねができるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の共通性や固有性、音楽の特徴や多様性への理解が深まるよう比較するページが多く設けられており、生徒同士が対話しながら活動し、音楽への理解が深められるよう工夫がなされている。</li> <li>・楽曲を比較しやすいよう配置され、「Active！」のページでは生徒自らが主体的に学び、音楽への理解が深められるような工夫がなされている。</li> <li>・創作分野では、声を使用したり体を鳴らしたりする音楽表現活動を取り入れ、楽器を使用しなくても手軽に創作に取り組み、また、発展的な学びになるような工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	教育芸術社（中学生の音楽）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材ページに学習目標が提示されており、主体的に学んだり、創意工夫を生かした音楽表現をしたりするために、目標に迫るための具体的な活動例やポイントが適切に示されている。</li> <li>・音楽を形づくっている要素が曲ごとに示され、それを基にして音楽の見方・考え方を働かせながら学習できるように適切な工夫がなされている。</li> <li>・音や音楽と生活や文化との関わりについて考える特集や資料が多く提示されており、音楽を幅広くとらえ、音楽に関する感性が豊かになるよう適切な工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各学年の発達段階に応じた学習内容が配置され、目次に続くページに各教材で育成を目指す資質・能力を示すことで、生徒が見通しをもって学習できるように適切な配慮がされている。</li> <li>(2) 作者からのメッセージや曲の背景を写真とともに示し、生徒の興味・関心を高め、「学びのコンパス」等で追究の手順や鑑賞の観点を示すことで、理解が深まるよう適切な工夫がされている。</li> <li>(3) 豊富な資料（デジタルコンテンツ含む）・キャラクターの吹き出し等により、生徒が学習の流れを見通したり、新しい発見をしたりしながら、対話を通して主体的な学びができるよう適切な配慮がなされている。</li> <li>(4) 鑑賞では、多様な楽曲が用意され、図やQRコードによる説明で理解を深め、聴き比べる活動や体験する活動を通して、音楽のよさを味わうことができるような工夫がなされている。</li> <li>(5) 「学習目標」・「活動文」・「音楽を形づくっている要素」の3つを領域ごとに「緑」・「青」・「オレンジ」の3色に統一したレイアウトで紙面構成され、内容が一目で分かるような配慮がなされている。また、情景を想起できる写真や資料が数多く掲載されており、情景や曲の背景等をイメージしやすい配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 情景や背景を思い浮かべやすいような教材の選曲や、生徒の発達段階に応じて音楽の資質・能力を育むことができるよう題材が配列されている。系統性が考慮されており、段階を追って学習することができるよう、適切な配慮がなされている。</li> <li>(2) 「学びのコンパス」のページを手順に沿って学習を進めることで、段階的に学べるよう適切な工夫がなされている。</li> <li>(3) 複数の教材の中から個に応じた教材を選び、追究を深めていけるような配慮がなされている。指揮や伝統的な歌唱の謡等、体験活動を取り入れて実感を伴って学習を深められるような工夫がなされている。</li> <li>(4) すべての創作活動にQRコードがあり、デジタルコンテンツを活用しながら創作活動ができる。特に、直観的に音符を動かしながら、楽器が弾けなくても音を即座に確認できる便利なツールが活用できる配慮がなされている。</li> <li>(5) 様々なジャンルの音楽活動の写真や吹き出しによるコメント、「学びのコンパス」等を活用することにより、音楽の多様性を学び、対話しながら協働的な学びの手助けとなるような工夫がなされている。</li> <li>(6) 「学びのコンパス」には、楽曲から知覚・感受したことや学習内容を教科書に書き込めるようになっており、学習の振り返りができるような適切な工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会における音楽の役割についてのページや、我が国や郷土の伝統音楽についてのページが充実しており、音楽と生活を結びつけ、また音楽文化と主体的に関わっていく態度を養えるよう適切な工夫がなされている。</li> <li>・QRコードによるデジタルコンテンツが随所に配置され、内容も充実しており、瞬時に音が確認できる創作ツールや、個人で合唱パートの音取りが可能な音源等、生徒が興味を持って主体的に活動できるように便利で適切な配慮がなされている。</li> <li>・「学習目標」・「活動文」・「音楽を形づくっている要素」の3つを領域ごとに3色に統一したレイアウトで紙面構成され、生徒が見通しをもって学習できるように適切な配慮がなされている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

音 楽（器楽合奏）

教 育 出 版

教 育 芸 術 社

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 教育出版（中学器楽 音楽のおくりもの）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の奏法や運指が大きな写真で示され、生徒が視覚的・直感的に捉える助けになり、わかりやすく身につけるための配慮がされている。</li> <li>・楽器ごと奏法について比較し考え、ポイントに注目したり、仲間同士でアンサンブルしたりしながら主体的・協働的に学べるような工夫がなされている。</li> <li>・平易な楽曲から高難度な楽曲まで、合奏教材が幅広く豊富に掲載されており、生徒が主体的に取り組めるよう適切な工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 歌唱教材や鑑賞教材とも関連をもたせながら、無理なく題材が配列され、生徒が興味・関心をもって学習が進められるよう配慮がされている。</li> <li>(2) 平易で多様な楽曲が最初に数多く配列され、奏法について繰り返し学ぶことができ、基本的奏法の習得ができるよう適切な配慮がなされている。</li> <li>(3) 比較鑑賞をしたり、楽器の特徴を調べて共通点や相違点を話し合ったりするページが設けられ、それぞれの気づきや考えを共有しながら探究的な学びができるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 「深めてみよう」のコーナーでは、幅広いジャンルの曲が扱われ、さらに専門的で高度な内容も掲載されており、楽しみながら多様で発展的な音楽活動につながるような配慮がなされている。</li> <li>(5) 楽器の構え方や奏法の写真、イラストが大きく掲載され、見やすいレイアウト・文字の大きさ・図表など、可読性・可視性を高められるよう適切な配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 奏法や運指等の写真や演奏動画が使われ、無理なく易しい曲を習得した後、「Let's play」「Let's try」では幅広いジャンルから精選した学校教材を選べるよう適切な配慮がなされている。</li> <li>(2) 教材曲がPOPSや映画音楽など幅広いジャンルの中から精選されており、生徒が多様な音楽に親しめるよう工夫がされている。</li> <li>(3) 楽器を「弾く楽器の仲間たち」、「吹く楽器の仲間たち」の2つに分類し、日本や世界の楽器の特徴について調べたり比較したりしながら、探究的に学べるような工夫がなされている。</li> <li>(4) 「見る」「聴く」「知る」のQRコードが生徒の追究を深めていけるような手がかりとなっている。また、自然や命、環境（SDGs）に結びつくような楽曲も取り上げられている。器楽領域に楽器を使わずに「唱歌」の言葉のリズムをいかした創作活動を取り入れるなど、音楽を身近なものとして捉え、表現できるような配慮がなされている。</li> <li>(5) 奏法についての写真が多く掲載され、生徒が演奏方法について注目したり個別に学ぶための手がかりとなったりするよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 各題材の最後にある「まとめの曲」において、学んだ内容について自己評価しながら演奏し、学習のまとめをすることができるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平易な技術で演奏でき、生徒が親しみやすい楽曲から基本的な技能を身につけ、さらに発展的に学びを深められるような工夫がなされている。</li> <li>・創作や鑑賞の学習と関連付けたり、日本と世界の楽器、「吹く楽器の仲間たち」と「弾く楽器の仲間たち」等を比較したりできる構成になっており、生徒の対話的な学びや深い学びを促すよう工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 教育芸術社（中学生の器楽）
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各楽器の演奏準備、基本的な奏法が詳細に示され、特にリコーダーについては音楽表現をするために必要な技能を段階的に身につけられるよう適切な配慮がなされている。</li> <li>・教材ごとに「学びのコンパス」を活用しながら、主体的・協働的な学習が進められるよう適切な工夫がなされている。</li> <li>・鑑賞や創作領域とも絡め、多面的な活動が仕組まれており、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるよう大変適切な工夫がなされている。</li> </ul>
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>（本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 難易度が低く、親しみやすい曲が掲載されており、発達段階に応じてスモールステップで学習を進められるよう大変適切な配慮がなされている。</li> <li>(2) リコーダー学習では、小学校での学びを生かして、無理なく取り組むことができるよう適切な配慮がなされている。</li> <li>(3) 教材ごとに学習目標に迫るための具体的な学習活動の例や Q&amp;A のコーナー、「学びのコンパス」等、学習のヒントが随所に示され、主体的・創造的な活動が進められるよう大変適切な工夫がなされている。</li> <li>(4) 様々な演奏形態の写真の提示や参考曲の掲載、歌唱や創作と結びついた活動の設定等、各領域を結び付け、一体化させながら多様な音楽活動ができるような工夫がなされている。</li> <li>(5) 可読性・可視性については申し分なく、全体的にレイアウトがすっきりしており、楽譜に注目しやすい工夫がなされている。また、文章による説明が多く、より深い理解につながる配慮がなされている。</li> </ol>
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>（「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) どの楽器についても持ち方、姿勢、チューニング等、基礎的な事項を丁寧に扱い、さらに発展的な教材も用意されており、系統的に学べるよう適切な配慮がなされている。</li> <li>(2) 歌唱教材や鑑賞教材と関連させた楽譜が示され、領域を結び付けながら既習の楽曲を楽器で演奏できるような工夫がなされている。</li> <li>(3) 「アンサンブルセミナー」や「学びのコンパス」で発展的にパートの役割等、考えたいポイントを示し、音楽的な見方・考え方を働かせながら、対話的・協働的に表現を深めることができるよう適切な工夫がなされている。</li> <li>(4) QR コードにはその内容が示されており、生徒の学習理解を助けたりイメージを広げたりすることができる。また伴奏を5段階の再生速度で選択し、活用できるコンテンツもあり、個に応じて弾力的に学習を進めていけるよう大変適切な工夫がなされている。</li> <li>(5) 各楽器の特徴や奏法等が鮮明でわかりやすい写真やイラスト付きで丁寧に説明されており、生徒が演奏のイメージをもちながら取り組めるよう適切な配慮がなされている。</li> <li>(6) 手順を追って練習できるように、「演奏のポイント」「練習のポイント」等が記載され、生徒自ら学習を進め、自己評価していけるような適切な工夫がなされている。</li> </ol>
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素を、学習指導要領に示された文言で記載し、音楽的な見方・考え方を働かせて活動できるよう適切な工夫がなされている。</li> <li>・演奏家のメッセージ、多くの演奏場面を写真で掲載し、楽器演奏に興味をもったり、日常生活や社会の中で様々な器楽による音楽が位置づけられていることに気づいたりしながら深く興味をもち、学習できるよう適切な配慮がなされている。</li> <li>・QR コードを活用し、主体的に工夫しながら学習できるよう、大変適切な配慮がなされている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

美 術

開 隆 堂

光 村 図 書

日 本 文 教 出 版

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	開隆堂（美術）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各題材の見出しの二次元コードで学びの見通しが持てるように工夫され、巻末の「学びの資料」によって、主体的に学ぶ手助けとなっている。</li> <li>・各題材に造形的な見方・考え方を広げる鑑賞作品、多様な表現や制作過程が示され、発想や構想を練りながら主題を生み出せるよう工夫されている。</li> <li>・現代美術をはじめ幅の広い鑑賞作品や生活や社会につながる美術文化が紹介され、美術を身近に感じ、心豊かな生活を創造できるように配慮されている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘索性  [ 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 ]	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 題材の様々な展開を示す作品例と、形や色、造形的な特徴などが紹介され、各学年の発達段階に応じた表現ができるように配慮されている。</li> <li>(2) 作者や作家の言葉、具体的な生徒の制作過程の姿が紹介され、発想や構想へつながる「ヒント」が示されるなど、生徒が造形活動の見通しをもち、イメージを膨らめられるように工夫されている。</li> <li>(3) 学習の流れが統一されていて、主題を生み出す発想や構想の活動が具体的に紹介され、添えられた生徒の言葉の吹き出しや活動のヒントを通して、造形的な特徴に気付き、主体的に表現を追求できるように工夫されている。</li> <li>(4) 安全面で配慮する活動に、注意喚起マークが示され、写真やイラストで用具の安全な使い方が分かるように配慮されている。</li> <li>(5) ユニバーサルデザインフォントが使用され、鑑賞作品への興味関心を高める手触り、筆跡や絵肌の細やかな表現、また、作品の一部が原寸大で掲載されるなど、鑑賞作品を身近に感じられるように工夫されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  [ 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 ]	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 巻頭に小学校図画工作からのつながりや4つの領域の学びを紹介し、他教科やSDGsとの関連を意識し、系統的に学習できるよう配慮されている。</li> <li>(2) 各題材に鑑賞のページが配置され、生徒が自己の表現を振り返り、イメージを広げたり他者の作品の良さに気付いたりできるよう配慮されている。</li> <li>(3) 題材のポイントを示す問いかけや友との対話を通して自他の表現の見方・考え方を広げたり深めたりすることができるよう配慮されている。</li> <li>(4) 巻末に美術の知識理解を深める「学びの資料」が掲載され、各題材ページ上部にある関連ページが示され、学びを深められるよう工夫されている。</li> <li>(5) 具体的な制作過程の作品や多様な鑑賞作品例、二次元コードでのデジタルコンテンツで立体的に作品を鑑賞できるよう配置されていて、個々の制作過程に応じて表現の工夫ができるよう配慮されている。</li> <li>(6) 各題材の始めに育てたい資質能力が3観点の目標で示され、自己の学びや考えをまとめ振り返り、表現の良さや広がり気付けるよう工夫されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材が4ページで構成され、導入、知識や技能の習得、発想や構想、振り返りが意識された授業の展開となっていて、制作の見通しが持ちやすい。</li> <li>・各領域が示され、各題材の目標など学習が整理され系統的に構成されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	光村図書（美術）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末や別冊資料、二次元コードで、様々な表現や道具、制作手順が掲載され、生徒が主体的に知識及び技能を習得できるよう配慮がなされている。</li> <li>・各題材で表現につながる鑑賞作品を掲載し、「みんなの工夫」を通して、生徒が試行錯誤している制作過程を紹介し、発想や構想を広げる工夫がされている。</li> <li>・作者の言葉や二次元コードで様々な視点から作品鑑賞することで、美術の学びを社会や人生へ生かそうとする態度の育成につながる工夫がされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各学年の発達段階に応じた材料や道具を取り上げ、表現方法が具体的に紹介されていて、表現の追求がしやすいように工夫されている。</li> <li>(2) 発想や構想の段階で様々な作品の例示や鑑賞のポイントを示し、具体的な制作過程を紹介することでイメージを膨らめられるよう配慮されている。</li> <li>(3) 題材の導入は鑑賞を窓口に注目する視点を問いかけることで関心を高め、生徒の具体的な制作の風景や言葉から生徒同士の対話を通じた学びへつながる造形活動となるよう工夫されている。</li> <li>(4) 巻末や別冊の資料の中で、取扱いが危険な道具については、注意喚起マークで注意を促すよう配慮がされ、タブレットのモラルにも触れている。</li> <li>(5) 題材ごとに写真や図版の配置や構成が統一され、ユニバーサルデザインフォントが使用され、多言語で見られるよう多様な文化にも配慮している。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1年では自分や身近なものに関わる題材で造形活動を楽しめるようにし、2・3年では心の内面を掘り下げたり、生活や社会とつながり視野を広げたりする題材が配置されるよう工夫されている。</li> <li>(2) 各題材において導入に鑑賞を位置づけ、鑑賞を深めるポイントや制作過程の作品の比較、そして、表現活動の後に作者の言葉とともに鑑賞できるよう、「表現」と「鑑賞」が関連づけられ学びが深まるよう工夫されている。</li> <li>(3) 生徒同士が対話する姿や作者の工夫を動画で視聴できたり、鑑賞の幅が広がるよう二次元コードから自分の感じ方に合う言葉を探したりできるなど、見方や感じ方を広げられるよう工夫されている。</li> <li>(4) 別冊には様々な分野の表現方法を複数の具体物で例示しながら分かりやすく解説されている。二次元コードの補足によって、より具体を見られる。</li> <li>(5) 見開きページの鑑賞では、日本画を和紙の風合いを感じられる紙面や原寸大の作品の掲載によって、実感をもった鑑賞となるよう工夫されている。</li> <li>(6) 各題材に3観点の目標を分かりやすく提示し共通事項が意識されるよう「ポイント」で着眼点を示し、自分の制作を振り返られよう配慮されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭ページで「美しい」をテーマに詩と連動しながら生徒に語りかけ、身近なものの鑑賞から、美術の本質を味わい関心を高めるよう工夫がされている。</li> <li>・鑑賞・表現・鑑賞と関連づけられ制作過程の見通しが持ちやすい紙面構成と同時に言葉を大切にし、具体的な授業の流れを想像できるよう工夫されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	日本文教出版（美術）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各題材で「造形的な視点」を明示し、関連する用具の扱いについて、「学びを支える資料」が各巻末に紹介され、試行錯誤するプロセスを大切にしながら主体的に追求していけるよう配慮されている。</li> <li>・複数の作品や写真、「作者の言葉」や「表現のヒント」から見方や感じ方を広げ、個々の選択の幅を広げた造形活動ができるようより工夫されている。</li> <li>・視野が広がるよう作者の言葉や制作へ向ける思いを語る言葉に触れられ、生活や社会へ結びつく美術の学びに気づき、理解が深まるよう工夫されている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘索性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各題材で学年の発達段階に応じた表現活動や鑑賞活動が配置されており、複数の材料や表現を取り上げ生徒が主体的に選択できるよう配慮されている。</li> <li>(2) 「学びのはじめ」や「鑑賞の入り口」の導入活動でイメージを広げ、「表現のヒント」によって追求の道筋の中で試行錯誤するなど、新たな発想や構想を得ながら造形活動が行えるよう工夫されている。</li> <li>(3) 二次元コードを利用して、様々な生徒や作家の作品を鑑賞したり、「作者の言葉」で作者の思いに触れたり、個々の主題や表現方法を振り返り、主体的・対話的な造形活動が行えるよう工夫されている。</li> <li>(4) 巻末には、「学びを支える資料」として、用具の安全な使い方について、図や写真、注意喚起マークによって視覚的に伝わるよう配慮されている。</li> <li>(5) 文字はユニバーサルデザインフォントを使用し、フォントの大きさや文字の間隔が見やすく配置されている。表紙や中央のページには、美術作品を原寸大に拡大するなど、視点を変えた鑑賞ができるように工夫されている。図版や写真が鮮明で見やすい配置がされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各学年で扱う内容が1冊ずつにまとまり、3冊を通して発達段階に応じた題材構成となっており、2年時と3年時の成長の違いを意識し、より学びが深まるよう配慮されている。</li> <li>(2) 図版や写真、二次元コードなど、学習に応じた内容が掲載されていて、題材の目標の中には表現活動と鑑賞活動が往還するように位置づけられ、表現と鑑賞が一体的に学習できるようにより工夫されている。</li> <li>(3) 各題材に問いかけの形で、「鑑賞の入り口」、「造形的な視点」を示し、「表現のヒント」で発想構想の手立てや技能の方法を試行錯誤できるよう、生徒自らが見方や感じ方を広げ深められるよう工夫されている。</li> <li>(4) 各冊の巻末に各学年の題材に応じた技法や材料、素材に関する資料、二次元コードなどが掲載され、主題や思いを表現できるよう配慮されている。</li> <li>(5) 表紙、見開きページ、各題材導入の鑑賞作品、生徒の作品例など、白を基調とし、文字やマークを用いて見やすく構成して掲載されている。色相環の表示では、色覚特性のある生徒に配慮した色の配置がされている。</li> <li>(6) 3観点に合わせた「学びの目標」が掲載され、目標に照らして生徒の追求を振り返られるよう配慮されている。発想や構想、そして鑑賞と、試行錯誤を通しながら往還した造形活動となるよう工夫されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとテーマを設けられた3冊に分冊され、各学年の資質・能力に合わせた題材構成となっており、成長に合わせた内容で分冊することでより学習のプロセスを大切に、美術の学びを深められるよう工夫されている。</li> <li>・各題材において、図版を示し、学びを広げ、考えさせる問いかけがあり、鑑賞と制作を一体的に進め、追求を深められるよう工夫されている。</li> <li>・身近な地域に関連のある作品が掲載されており、生徒の関心を高める効果につながる。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

# 保 健 体 育

東 京 書 籍

大 日 本 図 書

大 修 館 書 店

G a k k e n

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	東京書籍（新編 新しい保健体育）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人生活における健康、安全について、自他の経験や多様な学習活動、豊富な補助資料を基に、知識及び技能を習得できるよう工夫がなされている。</li> <li>・「課題を見つけ解決に向かう学習」と「活用する・広げる」という活動の設定により思考力、判断力、表現力等が育成されるよう工夫がなされている。</li> <li>・小・中・高までの系統性を重視した構成や今日的な課題に対応した内容が配置され、生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指す工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1見開き1単位時間構成によって、心身の発達段階に応じた分量の学習内容が学年ごとに配列されており、見通しのもてる適切な配慮がなされている。</li> <li>(2) 豊富な資料や図表が掲載されたり、対話的な学習に導く発問が設けられたりしていることで、生徒の興味・関心を引き出し、主体的・対話的な学習ができる適切な工夫がなされている。</li> <li>(3) 体育分野や他教科との関連を示す内容が明記されていることや、学習内容と実生活を関連させられるような時期に対応させる配慮がなされている。</li> <li>(4) 豊富な章末資料や巻末スキルブックが掲載され、学習用語の解説が分かりやすく理解が深まるよう工夫がなされている。</li> <li>(5) 本文とキーワードの字体を分ける工夫や、ユニバーサルデザインフォントの使用に加え、カラーユニバーサルデザインの使用によって可読性が高まり、全ての生徒にとって読みやすい配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 章の扉や QR コンテンツによって小学校での既習内容の振り返りや、高等学校での学習内容が明記されており、中学校での学習内容の明確化と系統化が図られている。</li> <li>(2) 学習内容と実生活が関連付けられるよう学習時期を想定した配列が適切に配置されており、生徒が主体的に学習に取り組める工夫がなされている。</li> <li>(3) 学習内容を活用し、広げる学習活動が適切に設定されていることで、相互に関わり合いながら活動に取り組める工夫がなされている。</li> <li>(4) 学習内容が自身の経験や運動体験につながる発問となるように設定されており、知識の重要性を実感できる配慮がなされている。</li> <li>(5) 文章教材の内容が深まるよう、適した位置に写真や図表が記載されており、確かな知識及び技能の習得につながる配慮がなされている。</li> <li>(6) 章末問題が QR コンテンツにまとめられており、生徒が繰り返し学習状況を確認することができる工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ページに4つのステップが統一された配置となっており、生徒も教師も学習の見通しが共有でき、主体的な学びとなるよう工夫がなされている。</li> <li>・教育の ICT 化に対応した QR コンテンツが多数用意され、生徒が視覚的に学習内容を捉え、学びの効果を高める工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	大日本図書（中学校保健体育）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての学習内容において、「キーワード」で学習を振り、知識の定着を図ることができるよう工夫がなされている。</li> <li>・巻頭に「1時間の学習の流れ」や様々な学習活動の仕方が掲載され、課題解決学習を通して、思考力、判断力、表現力等の育成を図る工夫がなされている。</li> <li>・3年間の学習と日常生活や自己実現とのつながりが示され、見通しをもって学ぶことができるよう工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 1学年では、発達段階を考慮し、本文は区切りのよいところで改行し、読みやすさへの配慮がなされている。</li> <li>(2) 導入部分での端的な問いかけ「つかもう」が提示され、身近な題材から興味や関心を寄せて学習に取り組むことができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「活用して深めよう」のページが多く設けられ、学習したことを活用し、学びを深め、今後の生活につなげていくことができるよう配慮がなされている。また、教科内や他教科との系統的な学びのための「リンク」が掲載され、教科横断的な学習が充実するよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 用語を巻末の索引としてページ番号を掲載するのではなく、各章末では重要語句や要点が再確認でき、学習内容の整理に役立つよう配慮がなされている。</li> <li>(5) カラーユニバーサルデザインをふまえた色遣いで、誰にでも分かりやすい紙面になるよう配慮がなされている。また、ユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすさへの配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い （「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 章扉では、学習指導要領に示された、小・中・高を通じた系統性のある学習ができるように、小と高の関連する学習内容が示され、視覚的に理解しやすいよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 全学年で体育編、保健編の順に構成され、保健編は「健康な生活と病気の予防」から配列されている。本文下の「リンク」が設けられ、単元相互の関連を図ることができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 各章に「学びを生かそう」のページが設けられ、保健体育の「見方・考え方」をはたらかせて思考を深めることができるように配慮がなされている。また、記入欄が広く設けられ、表現力を高められるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 全ての本文左に生徒の興味や関心を高める話題や読み物を「トピックス」として掲載し、学んだ知識を実生活と結び付けてより深められるよう配慮がなされている。</li> <li>(5) 1時間を見開きで構成し、左ページに本文、右ページに資料が分けて示され、学習に必要な図表、写真等が分かりやすくまとめられ、読み取りやすい工夫がなされている。</li> <li>(6) 各章にデジタルコンテンツで「まとめ問題」が用意され、学習内容を整理し、知識の定着を図れるように工夫されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文と資料を分けることで、本文部分に注意を向けられ、文章に集中しやすく、また、参照すべき資料がまとまっているため、活動に集中しやすいよう配慮がなされている。</li> <li>・実習で使いやすい折り込み資料は、教科書を広げて全体を確認しながら進めることができるよう工夫されている。また、デジタルコンテンツで動画視聴し実習ができるよう工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	大修館書店（最新 中学校保健体育）
1 教科の目標からの 配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの生活との関連を示しながら、科学的な根拠に基づいて正確に記述された豊富な資料と3つの学習活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能の定着ができるよう工夫がなされている。</li> <li>・学んだ知識をもとにして考え判断したり、まとめを発表したりする活動を設定し、思考力、判断力、表現力等の育成を図る工夫がなされている。</li> <li>・小・中・高の学習内容を明記し、これまでの学習の振り返りや今後の学習の見通しに対し興味・関心をもって学習に臨めるよう工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への 配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) すべての学習項目が1見開き1単位時間の構成でまとめられており、見通しをもって、指導・学習できるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 特集資料を設け、仲間と話し合い、互いの考えを共有したり、思考を広げたりする対話的な学びができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 単元や他教科との関連が示されていて、教科横断的な学習ができるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 本時の学習課題を示したり、学習の要点や重要な概念を見出しに掲げたりすることで、学ぶべき内容や要点がつかめるように工夫がなされている。</li> <li>(5) イラストや写真の配置、マークや囲みのデザインなどの妥当性を検証したり、さまざまな色覚の特性に対応した図やグラフを採用したりするなどの配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) すべての章とびらで小学校及び高等学校の学習内容が明記され、小・中・高の学習内容の系統化が図られるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 両分野に関する内容を扱う場合には、「体育の窓」「保健の窓」マークを設け、関連を図った学習が充実できるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 「学習のまとめ」では、多様な表現活動を提示し、言語活動やグループなどでの対話など、学習内容の特徴に合わせた活動の工夫がなされている。</li> <li>(4) 学んだことを社会や生活に広げたり、深めたりすることができる特集資料を設け、章末問題を掲載するなどの配慮がなされている。</li> <li>(5) さし絵、写真、図表等から自分や仲間の生活を考えたり、比較をしたりすることができる。また、実習ではイラストや写真を参考にして習得できるよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 章末には3観点の問題を設け、学んだ知識の定着や振り返りができ、教科の観点が明確になるように工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決を進め、深めていく学習となるよう巻頭・巻末資料や特集資料の工夫がなされている。</li> <li>・3ステップのシンプルな学習過程で構成され、見通しをもって主体的に学習が進められるよう工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	Gakken（新・中学保健体育）
1 教科の目標からの 配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を「学習の課題」で明示し、中間や終末に実践的な課題を取り入れ、知識及び技能を実践的に理解し、習得するための工夫がなされている。</li> <li>・対話的かつ協働的に取り組む課題や、学びを生かして資料から考える課題を通して、思考力、判断力、表現力等の育成を図る工夫がなされている。</li> <li>・事例を用いた「課題の発見」→「課題の解決」→「学びの活用」の構成により、見方・考え方を働かせ、主体的に学びに向かう工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への 配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設 問、提示文等の表 現、さし絵、写真、 図表、配色、フォ ント、コントラス ト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) イラストや写真、図表が多く配置され、学習内容や学習課題への興味・関心を高め、理解を深めるための適切な配慮がなされている。</li> <li>(2) 巻頭には「さまざまな学習方法」が示され、各章末の「探究しようよ」には探究課題が設定されており、生徒の学習経験や興味・関心に応じ、探究的な学習に主体的・対話的に取り組むための適切な工夫がなされている。</li> <li>(3) 「課題の発見」「学びの活用」でより身近な場面を考えることができ、また、各自治体の写真や関係機関の資料、「章デジ」に外部リンクを示し、生活等との関連を捉えながら学習できる適切な配慮がなされている。</li> <li>(4) マークや吹き出しにより、内容理解や課題を明確にしながらか学習できる工夫がなされている。</li> <li>(5) 特別支援教育の観点からレイアウトや図の配色が工夫され、ユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすいように配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習 得」のための工夫、「思 考力、判断力、表現力 等の育成」のための工 夫、「学びに向かう力、 人間性等の涵養」のた めの工夫、関連性・連 続性、個に応じた学 習、他者との協働、ま とめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 章の扉では、写真や資料からイメージを持ち、小・中・高の系統性と学習内容を確認、見通しをもって学びに向かうための工夫がなされている。</li> <li>(2) 「キーワードで見る保健体育の学習内容」には見開きの表により、体育実技・各教科との関連を捉えることができる適切な工夫がなされている。</li> <li>(3) 多様な学習方法と探究課題、課題に応じて働かせる見方・考え方が示され、「課題の解決」「学びの活用」「探究しようよ」は、主体的に、相互に関わり合いながら活動に取り組める適切な工夫がなされている。</li> <li>(4) 学んだ知識の内容を深める「学びの活用」「コラム」が設けられ、章のまとめにはキーワードや確認問題によって知識を確認できるように配慮がなされている。</li> <li>(5) 写真、図表には出典等が明記され、語句や課題には関連したさし絵や写真を掲載するなど、内容をより理解するための工夫がなされている。</li> <li>(6) 章のまとめには、内容に応じた観点別自己評価、生活への活用の記述により、評価の観点を明確にして振り返ることができる工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入から学習課題の明確化、中間の「課題の解決」、終末の「学びの活用」までの学習の流れが一貫しており、探究課題も多く示され、生徒が主体的に自ら考え、探究的に学習を進めることができる工夫がなされている。</li> <li>・相互に関わり合いながら、対話的かつ協働的な学習となるように「課題の解決」「学びの活用」「実習」「探究しようよ」の課題の工夫がなされている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

技術・家庭（技術分野）

東 京 書 籍

教 育 図 書

開 隆 堂

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	東京書籍(新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology)
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原理・法則や基礎的な仕組みを、「技術のとびら」「Tech Lab」として科学的な根拠に基づいて知識及び技能が身につくように工夫がなされている。</li> <li>・多様な問題解決例を多く載せてあり、ニーズ・シーズ両側面での探究と個別に応じた課題設定や課題解決に生かしやすいよう配慮がなされている。</li> <li>・「すごいぞ！技術」として、今日の社会で問題にされている課題（スマート農業・脱炭素社会等）に取り組んでいる技術の例を紹介することで、興味・関心が高まるように配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 身の回りの問題解決から社会の問題解決まで、基礎・基本から応用・発展へと学べるよう、題材構成の工夫がなされている。</li> <li>(2) 各内容で「理解する」→「取り組む」→「つなげる」と章の構成が統一されており、「問題解決例」や「社会の発展と技術」等の身近な問題の例から、生活を工夫し創造できるよう題材構成の工夫がなされている。</li> <li>(3) 「調べてみよう」「やってみよう」の項目で生徒が学んだことが実生活にどのように繋がっているかがわかりやすくなるよう工夫されている。</li> <li>(4) 工具等の扱い方の説明ページやガイダンスに、安全・衛生面の注意点の記載が共通のアイコンを用いて視覚的にわかりやすくなるように適切に配慮されている。</li> <li>(5) 挿し絵・写真・図表・配色・文字が鮮明で、全編でUDフォントを採用し、ユニバーサルデザインを意識した構成となっている。レイアウトは見開きで見やすく、本文と資料も見開きで大きく掲載され、見やすくなるよう大変適切に配慮されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ガイダンスで、「3年間で身につく資質・能力の例」、各編と小学校の既習内容の関連が示されていると同時に、各ページにも他教科（学習する学年も明記）との関わりや技術・家庭科における関連ページを示して他教科との関連がつかめるような配慮が大変適切になされている。</li> <li>(2) ガイダンスではSDGsと技術の関わりについて触れ、各編第1章では、生活や社会と技術との関わりを示し、各編末の「すごいぞ！技術」でそれぞれの技術の内容において最前線で活躍する「技術の匠」を紹介することで、生活との関連性や社会変化に対応した技術に関心が持てる配慮が適切になされている。</li> <li>(3) 「技術のめがね」で、その技術に込められた工夫などを読み取り、「最適化の窓」で、最適化するためにどのような折り合いをつけているかが分かるように示したり、本編の関連する箇所には「技術の天びん」マークをつけたりして生徒が興味・関心をもって「技術の見方・考え方」を捉えることができるよう配慮が大変適切になされている。</li> <li>(4) 動画やシミュレーション、図鑑など、自分の学習の進度や興味・関心に合わせて、個に応じた学習が進められるデジタルコンテンツが豊富に準備されるとともに、導入や展開の場面で、自分の考えがまとめられるワークシートや思考ツールを活用したコンテンツによって、自分と他者との意見を交流・共有し、思考を深められるよう配慮が、大変適切になされている。</li> <li>(5) さし絵・写真・図表等の内容は大変適切で、豊富なデジタルコンテンツも含めて、必要なものをよく精選して配置し、文章理解の補足あるいはこれからの学びにつなげるための配慮がなされている。</li> <li>(6) 節の冒頭に観点別評価につながる目標と学習課題を示し、編末には評価の観点に沿った設問を掲載することで、生徒が身につけた資質・能力を確認できるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンスにおいて、「何のために技術を学ぶのか」をはっきり考えてから、問題発見・解決の流れや道筋を丁寧に示し、テーマに即した学習の進め方や学び方がわかりやすくなるように適切に配慮されている。</li> <li>・生徒の学びと社会課題をつなぐ具体例を提示し、将来にわたって技術と生活の関わりを考えられるよう適切に工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	教育図書（新技術・家庭 技術分野 明日を創造する）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れが意識しやすい配列（技術をみつめよう→技術をいかそう→未来をつくろう）になっている。また、「スキルアシスト」で技能面について補うことで、科学的な根拠を基に技能を身につけられるよう工夫がなされている。</li> <li>・問題解決の手順を4コマ（4ステップ）でまとめ、見通しをもちやすくするとともに、生徒の理解度に応じて振り返りやすいため、自己調整しながら問題解決の力を養うよう、配慮がなされている。</li> <li>・生徒自身の問題解決の実践から視点を広げ、さらに技術のプラス面・マイナス面について触れることで、視野を広げ、多面的に評価し、活用する態度を育めるように配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 授業時数や生徒の発達段階などに配慮し、学習指導要領の内容に沿って系統的に学習できるように配列されている。</li> <li>(2) ガイダンスや各章で「見つける」→「学ぶ」→「振り返る」と学習のステップを明確にし、身近な問題から、生活を工夫し創造することができるよう題材構成の工夫がなされている。</li> <li>(3) 「技ビト」「スゴ技」の項目では生活の中で使われている技術に興味関心を持てるよう工夫されているとともに、「考えてみよう」の項目では自身の経験とつなげて考えられるよう工夫されている。</li> <li>(4) 作業のポイントを図示したり、「安全」「衛生」マークを用いて、実習時の注意点等がわかりやすくなりやすくなるなど、安全・衛生面への配慮がされている。</li> <li>(5) 挿し絵・写真・図表・配色・文字が鮮明で、全編でUDフォントを採用し、ユニバーサルデザインを意識した構成となっている。レイアウトは見開きで見やすく、本文と資料の区別もわかりやすくなるよう工夫されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ガイダンスで各編と小学校における既習内容の関連に触れたり、B～D編1章の最初のページで関連マークを用いたりして他教科の学習内容や小学校での既習内容との関連をつかめるような配慮がなされている。</li> <li>(2) 「共生」マーク、「環境」マーク、SDGzの目標に対応したマークなど今日的な課題に対応したマークを適所に記し、社会や生活の問題や技術との関わりを理解し、自らに関わる課題として捉えられるように配慮がなされている。</li> <li>(3) ガイダンスで身近な製品を通して問題解決例を示し、各編で「技術の見方・考え方」をはたらかせ、「見つける」「学ぶ」「振り返る」という学習の流れを積み重ねることで、主体的に相互に関わりながら活動できるように配慮がなされている。</li> <li>(4) 「見つける」では、想像しやすい発問を対話形式で掲載し、調べたり考えたりしたくなる「やってみよう」を適所に配置することにより、他者と関わりながら主体的に学ぶことができるよう、適切に配慮されている。</li> <li>(5) さし絵・写真・図表等の内容はわかりやすく、必ずタイトルや説明が加えられており、各章のまとめには未来を創造する力を育成するための配慮がなされている。</li> <li>(6) 各章、各編の終わりには学んだことをまとめる内容や、評価の観点に沿ったまとめ問題がそれぞれ配置されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な事例から問題発見・解決の流れを4コマ漫画で学ぶページがあり、生徒が主体的に技術による問題解決に取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>・身近なテーマに関わる資料を豊富に掲載することで、興味・関心を引き出し、主体的に取り組むことができるよう工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	開隆堂（技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術と生活や社会、環境との関りについて理解を深められるように、科学的な根拠を基にして技能が身につくように工夫されている。</li> <li>・どの内容でも問題解決の手順を4ステップ化したり、社会とのつながりを考えた問題の発見例を例示したりすることで、生徒自身で問題を見いだして課題を設定しようとするよう配慮がなされている。</li> <li>・現在社会が抱えている課題に対応できるよう、最新の技術について触れられており、技術の活用の仕方を客観的に判断・評価することで、主体的に参画する態度を育むよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の生活経験や発達段階及び授業時数などを考慮して各内容が系統的に学習できるよう配列されている。</li> <li>(2) ガイダンスや各内容の中で、「基礎・基本」→「問題解決」→「技術と私たちの未来」と構成を統一し、「見てみよう」「調べてみよう」等の身近な問題から、生活を工夫し創造することができるよう、題材構成の工夫がなされている。</li> <li>(3) 豊富な製作品例や具体的な説明で、生徒が生活とつなげて考えたり興味関心をもって取り組んだりできるよう工夫されている。</li> <li>(4) 工具等の扱い方の説明ページや技術の説明のページに安全・衛生面の注意点の記載が共通のアイコンを用いて視覚的にわかりやすくなるように配慮されている。</li> <li>(5) 挿し絵・写真・図表・配色・文字が鮮明で、全編でUDフォントを採用し、ユニバーサルデザインを意識した構成となっている。レイアウトは見開きで見やすく、本文と資料の区別もわかりやすくなるよう配慮されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) A～Dの各内容のとびらページで、小学校の既習内容や他教科の学習内容との関連を示したり、本編の中で関連する他の学習項目や家庭分野へのリンクを示す記号が示されたりし、学習指導要領の内容が有機的に関連をもって学習ができるような配置が大変適切になされている。</li> <li>(2) ガイダンスでSDGzに触れ、これからの社会に必要な考え方をおさえ、各内容の出口で技術の適切な活用を考え、技術の便利さを享受しながらそれを使い続けるための課題などを考えられるよう配慮が適切になされている。</li> <li>(3) ガイダンスで身近な具体例を挙げて技術の見方・考え方のイメージを示し、それと同じ形で各内容でも製品（サービス）を例に見方・考え方を解説している。各内容の出口で、生徒自身が技術の見方・考え方を振り返るように配慮が適切になされている。</li> <li>(4) 各小項目は、主体的な学習ができるようにすべて基本的に「学習の目標」「学習課題」「内容」「CHECK」で構成されているため、学習の流れが分かりやすく、デジタルコンテンツからワークシートをダウンロードすると、「実験」に協働的に参加して他者と関わりながら学習を進められるよう適切な配慮がされている。</li> <li>(5) さし絵・写真・図表等の内容は適切で、生徒目線のアングルで撮影した写真が使用されるなど、学習を広げる配慮がなされている。</li> <li>(6) 各学習項目の最後に「CHECK」、内容の終わりに「学習のまとめ」を設け、学習内容の確認や、社会へ広がる見方・考え方を育むような発展的なまとめができる工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「技術の見方・考え方」を理解した上で、実際にどのように働かせるかを考えられるよう、全体の構成が工夫されている。</li> <li>・身近にある技術の話題を豊富に扱い、SDGsの目標実現のために技術ができることについて問いを持たせる工夫がなされている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

技術・家庭（家庭分野）

東 京 書 籍

教 育 図 書

開 隆 堂

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	東京書籍（新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的・体験的な実習や製作を伴う場面で、必要な基礎技能をまとめた「いつも確かめよう」で確認し、知識や技能を定着しやすくする配慮がされている。</li> <li>・各編の導入において示された「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、学習の過程で思考判断しながら実践的な態度を育てられる配慮がされている。</li> <li>・学習のプロセスが「Warm up」で丁寧に説明され、新たな問いを「生活の課題と実践」で追究する等、問題解決的な学習についての配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前半は生徒にとって身近な衣食住の内容や興味・関心の高い内容から学習が進められ、後半は家族、幼児の生活という未来や将来につながる内容で、自立から共生へと学習が展望できる配列の工夫が適切になされている。</li> <li>(2) 主体的で対話的な追究を促す、「考えてみよう」「やってみよう」「調べてみよう」などの実感を伴う活動を多く取り上げ、友と協働して学ぶ配慮がされている。</li> <li>(3) 生徒の興味・関心を引く図や資料、豊富なQRコンテンツと思考ツールを示し、生徒の主体的・対話的な学びにつながる活動例が豊富に取り上げられ生徒が実感を伴って理解できる学習展開となるよう十分配慮されている。</li> <li>(4) 巻頭の「実習を楽しく安全に進めよう」や実習例に「安全」などのマークを付し、食物アレルギーについて詳しくふれるなど、安全面や衛生面への配慮がなされている。</li> <li>(5) 各内容や説明に関連した実物大写真、工夫を凝らした折り込み頁、全体的に落ち着いた色合いでまとめられた図表やイラストが随所に掲げられ、生徒の学ぶ意欲を高める配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小学校の内容、衣食住、消費環境等の内容や他教科との結びつきや関連を示したリンクマークにより、学習指導要領の内容のつながりを意識して関連づけ、他教科や小学校の教科書紙面をQRコンテンツで確認できるよう配慮されている。</li> <li>(2) 「せいかつメモ」「資料」で生徒の地域や地域の行事との関連に応じ、男女共同参画社会やダイバーシティなど共生の視点が随所に盛り込まれる配慮がなされている。</li> <li>(3) 「生活の営みに係る見方・考え方」が各編の導入にある事で、生徒が実生活を4つの見方・考え方の視点から多面的に見つめ課題を発見し、家庭生活の意義を考えられるよう、生徒の実態に合わせた題材の取り扱いに対しての工夫が十分なされている。</li> <li>(4) 製作・実習例では主となる題材の他にアレンジ作品の例を示して個に応じた学びや各学校の実状に合わせた履修ができるように十分に配慮されている。「生活の課題と実践」では内容を複合的に選択し、家庭と連携してできる内容で構成がなされている。</li> <li>(5) 各編末に持続可能な社会の構築に関する章が設けられ、SDGs17のゴールと家庭分野の関連を示す工夫がされているほか、内容に適したさし絵、写真、図が示されていて、資料では現代の生活の課題が示されていたり問題解決につなげたりできる内容になっている。</li> <li>(6) 学習のまとめが各編に設けられていて、学習の振り返りや評価の観点が明確になるように工夫されている。また、それぞれの項目において「まとめよう」で、押さえるべき基礎基本を明確に示している。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別最適な学びや協働につながる豊富なQRコンテンツが用意され、一人一台の端末を用いる生徒が、直感的に操作し理解できるよう工夫されている。</li> <li>・共生の視点が重視され、性別や国籍、世代を超えて共に生活している場面の写真やイラストが随所に取り入れられている。</li> <li>・消費者としての意思決定プロセスが示され、消費生活・環境と衣食住の内容を複合的に扱うなど、人や社会・環境に配慮した持続可能な社会の構築に向け、責任ある行動がとれる生活者の育成が意識されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	教育図書（新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する）
1 教科の目標からの 配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的・体験的な活動を通して、生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けられるよう配慮がなされている。</li> <li>・各編の最後に設定されている「学びを生かそう」で、学んだことを生活に生かしたり、問題解決的な学習につなげたりできるように配慮がなされている。</li> <li>・学習にかかわりのある地域や社会の人々のメッセージを示し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育てられるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への 配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意 性  〔 本文、見出し、設 問、提示文等の表 現、さし絵、写真、 図表、配色、フォ ント、コントラス ト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習指導要領の指導事項の順に沿って内容を配置し、生徒の関心に合わせた資料で発展的な深い学びにつなげられるよう配列の工夫がなされている。</li> <li>(2) 「見つめてみよう」などで、生徒の生活の中から学習課題を設定できるように配慮されている。口絵の写真やイラストと、各章の導入の身近な生活の問題から「やってみよう」「学びを生かそう」の学習の流れで、生活を工夫し創造できるよう題材構成がなされている。</li> <li>(3) 各章の最初に「自立度チェック」があり、生徒が生活の中から課題を見出し、実感的に学習に取り組めるように配慮されている。</li> <li>(4) 「実習は安全に取り組もう！」や、各内容実習例に「安全」や「衛生」のマークを付し、安全面や衛生面への配慮がなされている。</li> <li>(5) 教科書の判型が A4 変型の工夫がされ、各内容や説明に関連した実物大写真、折り込み頁、時勢に適した図表や明るい色調のイラストが数多く掲げられ、重要語句を青の太字で示すなど生徒の学びへの意欲を高める配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習 得」のための工夫、「思 考力、判断力、表現力 等の育成」のための工 夫、「学びに向かう力、 人間性等の涵養」のた めの工夫、関連性・連 続性、個に応じた学 習、他者との協働、ま とめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「関連」マークで、他教科や他の内容との関連を示し、学習指導要領の内容が有機的に関連をもって学習ができるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 持続可能な社会との構築に向けて、消費生活と環境問題・伝統文化・キャリア教育等のつながりを意識しながら、「学びを生かそう」や関連した写真やイラスト、資料などで、生徒の家庭生活や地域の未来を捉え、生活に生かすことができるように工夫されている。</li> <li>(3) 学習の導入にある「見つめる」では中学生の生活の一コマを対話やつぶやきにより「生活の営みに係る見方・考え方」の視点を用いて分かりやすく捉え、主体的に相互に関わりながら生徒の実態に合わせて取り組める配慮がなされている。</li> <li>(4) 各編の最後に「学びを生かそう」が設定されていて、家庭の中で実践できる内容が示されている。「見つめてみよう」で個別や集団での学びを促し、「生活の課題と実践」で家庭と連携してできる内容で構成がなされている。</li> <li>(5) 現代に応じたビジュアルに優れたイラスト、写真、資料等で現代の生活課題が示されており、課題解決につなげたり現代的な生活の課題を考えたりできるよう配慮がなされている。</li> <li>(6) 内容毎に「ふり返る」が設定されていて、本時の学びのふり返りやついた力が確認しやすい。各学習の「ふり返る」と、各章末に「学習のふり返り」を設け、まとめや評価の観点が、明確になるよう指導と評価の一体化への工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6つの食品群の頁では食品の写真の下に具体的な分量が示されていて、家庭での実践につなげやすい。食品成分表では、食品名の横に6つの食品群を示し、どの食品が何群にあたるのか理解を促す工夫がなされている。</li> <li>・食習慣すごろくなど生徒の興味をひく内容があったり、授業の流れを一目でとらえやすい紙面構成や3観点に沿った評価の工夫がみられたりする。</li> <li>・章末の「学びを生かそう」で、これまでの学びを踏まえて問題発見、課題設定、課題解決への流れを示し、実践につながるよう工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	開隆堂（技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立と共生の姿を尊重し、実践的・体験的な活動を通して生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けられるよう配慮がなされている。</li> <li>・生活の課題を解決する力が育てられるよう「話し合ってみよう」「考えてみよう」などで学び方や身につけたい力の具体例や問いがあげられ、生徒の主体性や対話を促す問題解決的な学習に取り組む一貫したつくり方に配慮している。</li> <li>・各内容の最後で持続可能な生活との関連を図り、環境保全のための生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育てられるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前半で知識、技能を実験や実習で確かめ、身につけた基礎基本を活用して深められるよう、扱う題材について段階的に内容を配列する工夫がなされている。</li> <li>(2) 学習のまとめ最後の頁には、学習したことを家庭や地域のためにどのようにこれからの生活に活かしていけるかという問いがあり、自分の生活に目を向け、生活を工夫し創造できる題材構成になっている。</li> <li>(3) 「やってみよう」「話し合ってみよう」「考えてみよう」では、生徒同士が意見交換しやすい問いが示されたり、科学的な視点での実験等が豊富に例示されたり、生徒自身が自分事として家庭生活を実感的に捉えられるように配慮されている。</li> <li>(4) 調理や製作等の安全にかかわる基礎・基本を示し、実習例に「安全」等のマークを付し、安全面や衛生面への配慮がなされている。</li> <li>(5) 各内容や説明に関連した実物大写真、折り込み頁、図表やイラストが随所に掲げられ、生徒の意欲を高めるよう配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「他教科」「小学校」のマークで、他の内容や他教科との結び付きを示し、学習指導要領の内容が有機的に関連をもって学習ができるよう配慮がなされている。</li> <li>(2) 「参考」「中学校での取り組み」などで実際の具体的な取り組みが示されていたり、住生活との関連から家庭分野での安全・防災について重視し細かい配慮がなされたり、生徒が地域や身近な家庭での問題に目が向くように配慮されている。「参考」や「豆知識」、「伝統文化」のマークにより、生徒の家庭生活や地域の行事等の関連に応じられるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 「話し合ってみよう」で、「生活の営みに係る見方・考え方」の視点を用いて生活事象を捉え、主体的に相互に関わりながら活動できるよう、生徒の実態に合わせた題材の取り扱いがなされている。</li> <li>(4) 集団での話し合いの場面や個で考えさせたい場面が随所に設定され、「生活の課題と実践」で家庭と連携してできる内容で構成がなされている。</li> <li>(5) 生活事象の背景が写真やイラストで分かりやすく示されていて、これからの時代に即した生活の課題や新しい資料、写真が扱われている。SDGs やLGBTQ、防災など、様々な現代の諸問題に触れられるよう工夫されている。</li> <li>(6) 学習のまとめが各編に見開きで設けられていて、学習の振り返りや評価の観点が明確になるように工夫されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な視点で原理にふれながら衣食住の実習内容について視覚的に理解が深められる工夫が多くみられる。</li> <li>・各内容の最後に持続可能な社会の構築に関連した項目が設けられ、衣食住の生活から課題を見だし、主体的に考えられるよう工夫がなされている。</li> <li>・多様な家族や様々な暮らし方をする人々が掲載され、共生社会について考える工夫がされている。「先輩からのエール」等進路に参考になる内容や未来を見据えた学習内容を扱う配慮がみられる。</li> </ul>

外 国 語

東 京 書 籍

開 隆 堂

三 省 堂

教 育 出 版

光 村 図 書

啓 林 館

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	東京書籍（NEW HORIZON English Course）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4技能5領域の言語活動が偏りなく配置され、各Unitでは単元の見通しを持ち、新たな知識及び技能を活用しながら段階的に習得できるよう適切に構成されている。</li> <li>・生徒が自分で思考し、判断したことを適切に表現できるよう、目的や場面、状況などに応じた言語活動が設定されている。</li> <li>・主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、多様な文化や価値観に目を向けることができる題材が扱われている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小学校での学びを生かしながら中学校での学習に移行できるよう、発音とつづりの関係を含め、小学校での学びを整理する単元が適切に設定されている。</li> <li>(2) 各Unitでは、聞いたり読んだりして理解した英語を利活用しながらアウトプットする活動へとスモールステップを積み上げていけるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 1年生で学校生活などの身近な話題、2年生で海外旅行や世界遺産、3年生で日本文化や動物愛護、国際協力など、生徒の発達段階に応じて扱う題材の内容が広がり、デジタル教科書でさらに興味を深められるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 複数の技能や領域の力を統合的に活用し、相手意識をもって言語活動を行う「Stage Activity」が各学年に3回ずつ配置されている。</li> <li>(5) 小学校で扱った単語や活動には印がついていたり、色や形を用いて文法を視覚的に識別して語順感覚を養ったりするよう工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い （「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各Unitにおいて、英語を聞いたり、読んだり、話したりした後に自分の考えを書くように構成されている。</li> <li>(2) 2, 3年生では「単元を貫く問い」がUnitのタイトルになっており、「Unit Goal」と「Unit Activity」に向け、英語を話したり、書いたりする「Activity」が段階的に適切に配列されている。</li> <li>(3) 「Stage Activity」では、具体的なゴールと目的や場面、状況などがともに示されており、情報を整理して、既習事項を用いながら自分の考えを表現できるよう配慮がなされている。</li> <li>(4) 「Real Life English」では、身の回りの日常的な場面における各技能領域に特化した言語活動が設定されている。</li> <li>(5) Key Sentencesを使う目的や場面、状況などをイメージしながら表現の定着を図ることができるイラストが挿入されている。</li> <li>(6) 各Unitの扉にある単元目標の達成状況が確認できるよう、単元末活動には振り返りがあり、巻末にはCAN-DOリストが設けられている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて既習事項を活用しながら自分の考えや気持ちを適切に表現する力を身に付けるために、言語材料を段階的に学習していく工夫がなされている。</li> <li>・単元の扉にゴールが設定され、巻末のCAN-DOリストを活用し、自分の学習を振り返ることができるよう適切な配慮がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	開隆堂 (Sunshine English Course)
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元のとびらに単元の目標や各パートの目標が示されており、導入部分では、新出表現を対話の中で取り上げているため、基礎・基本が身に付きやすく、実際に新出表現を使いやすいように構成されている。</li> <li>・日常会話の中で新出表現が導入されており、それをういてすぐに会話練習ができるよう工夫がなされている。</li> <li>・食べ物、漫画、学校行事、通学路、自然、動植物、年中行事、スポーツ、科学、手話、SDGs など、日本・海外を問わず幅広く触れられており、興味をもってコミュニケーションを図る工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「Get Ready」では、小学校で学習してきた内容を「聞く」「話す」「読む」「書く」ことの順番で復習できる内容が充実しており、小学校からの接続を丁寧に進めることができるように工夫がなされている。</li> <li>(2) 各学年で取り扱う題材が工夫されており、1年次は日常的な話題や外国語の文化や自然についての話題が中心となっている。2・3年次では、社会的な話題やSDGs についての話題が中心となっている。</li> <li>(3) SDGs に関わる題材が多く、目次にも単元のはじめにも、該当するSDGs の目標のアイコンが示されており、外国語を通して社会的な話題を学べる構成となっている。</li> <li>(4) 各学年に3つずつ配置されている「Our Project」では、「聞く」「読む」から「書く」「話す」というように段階を追って、単元で学習した新出表現を使って自分の考えを伝える活動が設定されている。</li> <li>(5) 単元のはじめのページには、単元の内容に関わる大きな写真や導入のための文書が示され、またどんな表現ができるようになるのか書かれており、単元の内容やできるようになることが分かりやすい工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 単元のはじめのとびらで目標が具体的に示されており、新出表現を導入してから本文の内容を理解し、「Action」のページで自分の考えを表現できるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 「Scenes」の「Listen」で、新出表現に触れながら必要な情報を聞き、「Speak &amp; Write」で、ペアで対話した後に自分自身のことを書く流れになっていて、新出表現を段階的に身に付けやすい構成となっている。</li> <li>(3) 「Our Project」では、モデル文を聞いたり読んだりした後に、伝えたい内容を書き出す構成となっており、スピーチや紹介文の作成に向けて、自己表現力などを伸ばしやすくなっている。</li> <li>(4) 「Scenes」の2コマ漫画では、登場人物が日常会話の中で新出表現を使っており、新出表現を使用する場面や状況が分かりやすい工夫がされている。</li> <li>(5) 3匹の動物のキャラクターが要所所で現れ、そのページのポイントを説明しており、学習者が注目してポイントを確認しやすくなっている。</li> <li>(6) 巻末のCAN-DO リストで、単元ごとに何ができるようになったのかを学習者自身が印を付けながら、達成度を3段階で把握できる工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出表現導入の場面の「Scenes」は、2コマ漫画で表現をどのような場面で使うか分かりやすく示されており、これから学ぶ新出表現に興味をもちやすい。</li> <li>・「Review&amp;Retell」では、吹き出しを用いた挿し絵を活用し、即興でやりとりができる工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 三省堂(NEW CROWN English Series)
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元は、学びの見通しをもってから、新しい言語材料と出会い、活用する構成になっており、4技能5領域の基礎を養えるようになっている。</li> <li>・各単元の終わりには、活用目的がはっきりした場面、状況などを設定した言語活動があり、思考力、判断力、表現力等が高まる工夫がなされている。</li> <li>・日本や他国の文化的背景を考えながら、主体的にコミュニケーションをしようとする姿勢が身につくように適切な配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  [ 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 ]	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1学年の導入部では小学校との接続期を意識した復習内容の「Starter」が設けられ、絵を使って視覚的に語句等の復習ができるような工夫がある。</li> <li>(2) 単元や本文の導入時には、題材や本文の内容に関わる Small Talk が設定され、読んだことを参考にして、話す活動を繰り返すことで、単元末の活動に学びがつながるよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 生徒の興味・関心や発達段階に合わせて、異文化理解、災害への対策、環境問題、世界平和、日本の伝統文化など、自分の回りのことから社会的な課題へと題材が広く扱われている。</li> <li>(4) いくつかの単元の後にはペアやグループで取り組みの中で、自分の考えや気持ちを伝える表現活動として「Project」が設定されている。</li> <li>(5) 「Small Talk Plus」では即興的に会話を続けるための視点やヒントが示され、単元末の活動に活かせるやり取りができるように配慮されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  [ 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 ]	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 即興的に話す→理解する→表現する流れで学びの形が統一されており、4技能5領域がバランスよく指導できるような構成となっている。</li> <li>(2) 単元末の言語活動「Goal Activity」に向けて、新出表現の定着に向けた活動「Exercise」や、読んだ内容から自分が考えたことを伝え合う活動「Think about Yourself」が段階的に適切に配置されている。</li> <li>(3) 「Project」では、言語活動の目的や活用場面などが示され、表を用いて自分の考えや伝えたい情報をまとめ、聞き手を意識した表現のあり方や、構成を考えたコミュニケーション活動ができるように工夫がなされている。</li> <li>(4) 「Take Action」では日常生活の場面でよくある広告やお知らせ等から自分に必要な情報を得たり、要点をまとめたりする活動が設定されている。</li> <li>(5) 写真やイラスト等の視覚的な形式で、語句の意味や表現が使用される場面を理解しやすいように配慮がなされている。</li> <li>(6) 巻末の CAN-DO リストによって、各単元の言語活動の関連が示されており、学習到達目標の達成状況を確認しながら学習できるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末活動「Goal Activity」に向けて、単元内でのやり取りや、読むことを通して、「話すこと」「書くこと」のヒントを得られるように構成されている。</li> <li>・写真やイラスト等の視覚的な工夫が多く用いられ、語句や英文の内容をより具体的にイメージできるように配慮がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 / 発行者名	教育出版（ONE WORLD English Course）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各 Part で「読む」、「書く」、「聞く」の活動から実際に使えるコミュニケーション活動ができるようになっている。</li> <li>・各単元末の「Task」では、目的や場面、状況などが明確に設定され、思考力、表現力、判断力等を育成できる工夫がなされている。</li> <li>・各 Part や単元末に自分の考えや気持ちを表現する活動があり、主体的に学習に取り組む態度が育成されるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  （本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) どの学年も Lesson の終わりに文法がまとめられており、復習しやすい工夫がなされている。</li> <li>(2) 各 part 「Think &amp; Try」「Read &amp; Try」単元末「Task」、年 3 回の「Project」では、自分の考えや気持ちを表現する活動ができるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 生徒の興味・関心や発達段階に応じて、日本文化、異文化、自然、社会、キャリアなど生徒が身近に感じられる題材の配置を工夫がなされている。</li> <li>(4) 年 3 回の「Project」では、聞くことから始まり 4 技能 5 領域を統合的に活用した活動がある。</li> <li>(5) Part1,2 は左ページに英文、右ページに文法や各 Part のまとめの課題が配置されており、Part 3 は両ページに英文があるが、注目ポイントが書かれており、学習者が見やすいよう配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  （「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価）	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各 Part で英語を読む・話す・聞く活動を行い、単元末の言語活動に向け考えを話したり書いたりできるよう構成されている。</li> <li>(2) 各 Part の終末に用意された言語活動に向け、必要な言語材料について理解する項目や、話したり聞いたりして定着を図る活動が段階的に配列されている。</li> <li>(3) 「Project」では、既習の知識や表現を生かして、4 技能 5 領域の知識及び技能を活用しつつ、思考力、判断力、表現力等を働かせながら取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 「Useful Expression」では、日常生活で使える表現がでてきているため、親しみやすい内容となっている。</li> <li>(5) 生徒の内容理解を助けるような挿絵や写真が使われている。</li> <li>(6) 単元の扉ページに該当 Lesson での目指すべき姿が書かれ、裏表紙の CAN-DO リストとも関連付けられている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各 Part や各単元だけでなく、年に 3 回設定されている「Project」を通して、4 技能 5 領域を総合的に育成できるようになっている。</li> <li>・1つの領域に焦点を当てた課題や日常的な場面を想定した活動を通して、生きた英語の習得を目指せるようになっている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準 発行者名	光村図書（Here We go! ENGLISH COURSE）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各 Part では、左側のストーリーを通して基本文を身に付け右ページでは、「Listen」→「Speak」→「Write」と活動を行うことで4技能5領域を身に付けることができるよう工夫がなされている。</li> <li>・各単元末の「Goal」では、目的や場面などを明確にして、読んだり聞いたりした内容について書いたり話したりする言語活動を通して、思考力、判断力、表現力を育成することができるよう工夫がなされている。</li> <li>・自国と他国の文化的な背景を考慮しながら、主体的にコミュニケーションを図れるよう工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1学年では小学校での学びを生かせる単元が設定されており、段階的に中学校の学習に取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(2) 対話や本文を通して、学習する表現に気付くことから始まり、インプットからアウトプットへとスモールステップの活動に取り組めるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) 興味や発達段階などに応じて異文化理解、災害対策、環境問題、平和、日本の伝統文化など、身の回りのことから社会的な課題へと自分事として捉えられるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 単元末には、ペアやグループで協力しながら既習事項を用いて考えや気持ちを伝える活動が配置されている。</li> <li>(5) 写真やイラストを多く用いて表現の使用場面をイメージできるよう工夫がなされ、また色覚の多様性に配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各単元「読む」「聞く」「話す」「書く」の順序で統一され、4技能5領域が偏りなく指導できるよう構成されている。</li> <li>(2) 各単元終末に向けて、言語使用場面について理解する「聞く、読む」項目と、新出表現の定着を図る「話す、書く」項目が段階的に配列され、学びの見通しがもてるよう工夫がなされている。</li> <li>(3) まとめの活動「You Can Do It!」では、単元で学んだことを生かした活動場面が示されており、生徒の振り返りが3観点の評価の参考となるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 実社会の言語使用場面が意識された教材では、場面特有の表現が明示され、理解と活用が指導できるよう構成されている。</li> <li>(5) 英文を読むページには内容に関わるイラストが、聞き取り活動では場面をはっきり見分けられる写真が多く用いられている。</li> <li>(6) 単元のとびらには、内容を想像しやすい写真やイラストが配置され、単元終末にはCAN-DO リストの振り返りが設定されている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の気持ちや伝えそうなこと、起こりそうな出来事を中心にストーリーが構成されており、言語使用の目的や場面、状況などを自分事としてイメージできるよう工夫がなされている。</li> <li>・既習の表現や語彙に繰り返し出合えるよう言語活動や帯教材の配列に工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 啓林館（BLUE SKY English Course）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元で4技能5領域が段階を踏んで位置付けられ、学んだ知識及び技能を活用する言語活動が設定されている。単元末には、複数の領域を統合した活動に取り組めるように配慮がなされている。</li> <li>・目的・場面・状況等に応じた言語活動が設定され、日常的・社会的な話題で、単元末で自分の考えを適切に表現できるよう工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘索性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各 Part がそれぞれ見開きで、学習内容がシンプルにまとまっており、段階的に学習を進めることができる。</li> <li>(2) 各 Part で各技能を段階的に指導できるように配慮がなされている。</li> <li>(3) 身近な題材や、環境問題等に関わる内容を取り扱っており、生徒が自らの意見をもちやすい。また、日本や世界の名作や、有名な英語の楽曲等を扱っており、生徒の興味・関心を引くように工夫がなされている。</li> <li>(4) 各単元の Think &amp; Write / Speak では、4技能5領域を活用し、言語活動が行えるように配慮がなされている。</li> <li>(5) 生徒の意欲を高めるように、シンプルな絵や写真が適切に配置されている。各 Part の右側のページは絵が中心の課題になっており、取り組みやすい。また、写真の上に文字が重ならないようになっており、見やすさにも配慮がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各単元の Part が、『リスニングで大まかな内容把握→本文読解（読む）→Listen（聞く）→Speak（話す）→Write（書く）』という順番に構成されており、各領域をバランス良く扱えるようになっている。各単元で同じ構成になっているため、教師も指導がしやすく、生徒も学習の流れをつかみやすい。</li> <li>(2) 各 Part では文法の説明はシンプルに収め、単元終了後に Focus on Form で細かく復習ができるよう、配慮がなされている。</li> <li>(3) 各 Part を段階的に指導し、最後に Unit の内容を自らに置き換え、互いに伝え合う、Read and Write / Speak というような活動が配置されており、繰り返し学習内容に触れる機会がある。</li> <li>(4) Project の単元では、様々な題材を通して自分の考えや情報を整理し、発表しやすいように工夫がなされている。話すことのやり取りの指導も充実させることができる。</li> <li>(5) 場面や状況がイメージしやすい挿絵や写真が適切に配置されている。</li> <li>(6) 単元の初めに Unit Goal が明示されており、各単元の終末でその振り返りができるようになっている。CAN-DO リストも巻末に掲載されており、自己評価に活用できる。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元で4技能5領域がバランス良く指導できるように配慮がなされている。また、各単元の構成が同じになっていることで授業の流れがつかみやすいように工夫がなされている。</li> <li>・設問や本文の絵や写真がシンプルで、生徒が取り組みやすいように工夫がなされている。別ページに詳細な説明やスクリプト等も掲載されている。</li> </ul>

中学校教科用図書 調査研究結果報告書

道 徳

東 京 書 籍

教 育 出 版

光 村 図 書

日 本 文 教 出 版

G a k k e n

あ かつ き 教 育 図 書

日 本 教 科 書

調査研究結果報告書（選定理由書）

採択基準	発行者名 東京書籍（新編 新しい道徳）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材において「見つめよう」「考えよう」という発問が設定されており、まず自分の考えをもって、友との意見交流が行えるような工夫がなされている。</li> <li>・様々な立場の人たちの生き方に触れた教材が盛り込まれ、社会の一員としてよりよく生きるための新たな視点を持ち、道徳的な課題について考え続けていくきっかけとなるような工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校生活や各学年の行事に関連した教材も複数設定されており、どの学年の生徒も自分の生活と結び付けて考えられるような配慮がなされている。</li> <li>(2) デジタルコンテンツが豊富に用意されており、生徒の学習意欲を喚起し、より深く考えるための手掛かりとなるような工夫がなされている。</li> <li>(3) 絵や4コマ漫画、地図、写真など、生徒が身近に感じられるような資料を取り入れていることで生徒が新たな価値を見だし、話し合い活動につながるやすいような工夫がなされている。</li> <li>(4) コラム「Plus」では、ロールプレイや話し合いなどの体験的な活動を通して、生徒が様々な立場から考えることができるような工夫がなされている。(5) より視認性の高いユニバーサルデザインフォントの使用や配色とデザインの検証により、すべての生徒が使いやすいような配慮がなされている。</li> <li>(6) AB版サイズで教科書が開きやすく、視覚に訴えるカラーの挿絵や資料が豊富に掲載され、本文の内容についての興味・関心を高めるとともに、生徒がイメージをもちやすくなるような工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) それぞれの内容項目では、まず自分や自分の周囲のことに関する視点から、相手やまわりのこと、社会のことや国際的なことへと視野の広がりや深まりをもたせる配列となっている。</li> <li>(2) 関連する学校行事の実施時期を考慮して教材が配列されているため、各学校でも年間指導計画が立てやすく、また生徒は自らと重ね合わせながら主体的に考えて授業に取り組むことができるような配慮がなされている。</li> <li>(3) 「多様性」や、「伝統文化」「防災」「SDGs」などに関連する教材ではデジタルコンテンツ等も多く、今日的な課題において生徒が自らの考えを深めたり、必要な判断力を養ったりすることのできるような配慮がなされている。</li> <li>(4) 挿絵や写真などは鮮明で見やすいものとなっており、授業中に黒板に貼ったり、教室内に掲示したりして活用できるような工夫がなされている。</li> <li>(5) 教材ごとの学習カードと学期ごとのふり返しシートが用意されていることによって、生徒が自身の成長を実感したり、教師が生徒の成長を把握したりすることができるような工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教材において、発問「考えよう」「見つめよう」が示され考えを深め、さらにコラム「Plus」で視野を広げられるような配慮がなされている。</li> <li>・さまざまなジャンルや形態の教材が用意されており、生徒が主体的に学ぶことができる工夫がなされている。</li> <li>・デジタルコンテンツだけでなく、心情円のような手と目を使ってその場で互いの思いを共有できるようなコンテンツの工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	教育出版（中学道徳 とびだそう未来へ）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「道徳科の学びを広げよう」「この教科書で学べるテーマ」により、「SDGs」などの視点で多面的・多角的に考えられるような工夫がなされている。</li> <li>・資料名に A, B, C, D の内容項目の絵があり、「一年間の道徳で学んだこと」で、多面的・多角的な振り返りがしやすいような工夫がなされている。</li> <li>・各資料末の「学びの道しるべ」の三つの問いを段階的に考えることにより、人間としての生き方について考えを深められるような工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 巻頭に配置されている「さあ、道徳を始めよう！」で各学年の発達段階に即した内容により、年間の見通しがもちやすいような配慮がなされている。</li> <li>(2) 資料名の「ランドマーク」印には「本質的な問い」のような投げかけがあり、資料末の「学びの道しるべ」でその問いに迫るような工夫がなされている。</li> <li>(3) 「学びの道しるべ」は三問構成であるが、最後の発問によって自分事としてどのような実践をするか考える工夫がなされている。</li> <li>(4) 体験的な活動が取り入れられ、他者に意識が向くような工夫がなされている。</li> <li>(5) 資料の内容に応じてモノクロの手描きによる挿絵を用いて、視覚的にメリハリつくような工夫がなされている。</li> <li>(6) 法務省人権擁護局新 17 項目（人権課題）を鑑み、登場人物の性別や人種等の偏りがないように配置する工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全学年とも資料まで含めて、22 の内容項目をすべて網羅してあり、さらに補助教材を追加したことで、学校や学級の実情等によって資料の選択がしやすい工夫がなされている。</li> <li>(2) 全学年において「いじめをなくそう」「つながり合って生きる」「いのちをかがやかせる」として2つの資料を連続させたユニットを構成し、人権教育や性教育と関連付けて指導しやすいような工夫がなされている。</li> <li>(3) 全学年複数の教材とコラム「ひろば」を組み合わせた単元や、補助教材を活用して柔軟なカリキュラム編成が可能となる工夫がなされている。</li> <li>(4) 道徳的諸問題が生じた場面や、登場人物の感情が変化した場面に挿絵を掲載することで、思考するポイントを明確にするような工夫がなされている。</li> <li>(5) 巻末に学期末や年度末に自己の学びを振り返るシートが配置されており、生徒が自らの成長を確認したり、把握したりできるような工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料末にある「学びの道しるべ」による発問で、自分事として問題意識をもちやすく、物事を広い視野で捉える工夫がなされている。</li> <li>・重点ユニット「いじめをなくそう」「つながり合っていきる」「いのちをかがやかせる」は、年間の振り返りと関連させて、人間の生き方の本質に迫る工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	光村図書（きみがいちばんひかるとき）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のてびきに「つなげよう」という、他教科や日常生活等につなげる呼びかけが設けられ、深めたいテーマにつながるような配慮がなされている。</li> <li>・道徳的な問題を明らかにし、道徳的価値に迫れる問いが多く設けられ自分事として学びのテーマに迫れる工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の成長に寄り添うようなテーマをもったユニットで構成され、またユニット毎に題材が独立しているのではなく、関わり合い、テーマに向かって考えられる構成の工夫が大変適切に配置されている。</li> <li>(2) 生徒がこの題材を通して何を学ぶのか「考えよう」にテーマが示されていたり、課題設定の場面では中心となる発問や関連する2つの問いが設定されていたりと生徒が授業の見通しをもちやすい配慮がなされている。</li> <li>(3) 自分事として捉えられるような、日常生活にありがちな場面を教材化し、問題解決の道筋を分かりやすく視覚化して、読み取るだけでなく友達との対話を通して解決していくことができる教材が用意されている。</li> <li>(4) 「演じて考えよう」「まなびをプラス」など、読むだけでなく役割演技をして、考えを広げ深める教材が適切に配置されている。</li> <li>(5) 本文や教材は縦組み、「問い」やさらに深めたいテーマに「つなげる」部分は横組みとして、一目で区別できるような配慮がなされている。</li> <li>(6) 内容項目が、形と色で判別できやすい異なったデザインのハートマークと色の違いで適切に示されている。また、教材末には他教科との関連がわかるマークが適切に示されている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 内容項目が生徒の発達の段階に合わせたユニットで構成され、また目次にユニット毎のテーマが示されており、生徒の成長に沿ってどの題材を選ぶか、すぐに分かる適切な配慮がなされている。</li> <li>(2) 題材の他に、協働的に話し合って答えを求める教材が配置されており、教師が創意工夫して授業を組み立てられるような配慮がなされている。</li> <li>(3) 「考えよう」という中心発問と「見方を変えて」という切り口を変えた問いが設けられ、多面的・多角的な見方や考え方ができるように大変適切に配慮されている。</li> <li>(4) 中心発問の場面、道徳的な問題が起こっている場面にイメージ化できる挿絵が挿入されており、教材内容の理解を手助けする工夫がなされている。</li> <li>(5) 巻末にある「まなびの記録」は、授業ごと自分の考えを簡潔に書き留めておけるページが1枚のシートにまとめられており、1年間の自分の成長が見やすく実感しやすい工夫が大変適切になされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年にも、共に生きるために大切な「人権」に関わる教材とコラムのユニットが設けられており、3年間を通して人権に対する知識と考え方を学び、感性が高められるような教材の配列が大変適切に配置されている。</li> <li>・まず道徳では何を学んでいくのかを明確にし、自ら「問い」をもち自分事として探究し、学んだ道徳的価値を他者と協働しながら、実感できる全体構成になっている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	日本文教出版（中学道徳 あすを生きる）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な価値観や生き方に出会える教材が用意され、学年ごとにテーマを設けて教材を配列することで、自己肯定感が育めるような工夫がなされている。</li> <li>・現代的課題に関わって自分の生き方を考えられるようテーマを設定し、テーマに対応したコラムにより他教科・地域との関連にも工夫がなされている。</li> <li>・教材末に「学びを深めよう」を設け、話し合いや役割演技などから多面的・多角的に考えあうことで納得解を得られるよう配慮がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達段階を踏まえて身近な教材を選定し、学ぶ必然性が感じられる適切な時期に各テーマが設定されている。</li> <li>(2) 生徒が興味を持ちやすく、かつ多様な生き方に触れることができる教材が豊富で、3ステップで学びの流れが分かりやすいよう配慮がなされている。</li> <li>(3) 教材のねらいに迫る中心発問と自分に生かすための発問「自分に+1」が示され、生徒が主体的かつ柔軟に学習できるよう工夫がなされている。</li> <li>(4) 問題解決的な学習、体験的な学習などに適する教材に配置された「学びを深めよう」では、多面的・多角的に学習できるような工夫がなされている。</li> <li>(5) 難解語句に丁寧な補足説明をつけると共に、図版が鮮明で大きく配置されているため理解しやすく、興味・関心がもてるよう工夫がなされている。</li> <li>(6) 読み取りやすさ、見やすさからユニバーサルデザインフォントを使用し、性別や人種等に偏りが無いよう人権に配慮した工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 系統的・発展的に学習できるよう各学年のテーマを設定し、特にいじめやよりよい社会に関わる内容は複数の教材やコラムがユニット化され、年間を通して複数配置することで、より深い学びが得られるよう配慮されている。</li> <li>(2) 学校生活目標や学校行事など、他教科等の内容および実施時期との関係を考慮した教材配列がなされている。地域教材の活用や開発にも配慮され、地域の魅力を発見し、発展に尽くそうとする意欲を育むような工夫がなされている。</li> <li>(3) いじめと向き合うための直接的、間接的な教材とコラムを複数提示したり海のゴミ問題と貴重な水文化の教材を続けて配置したりするなど、様々な角度から総合的に考察できるような工夫がなされている。</li> <li>(4) 教材名の下に主な登場人物の欄を配置するなどして、教材を読み取る際の抵抗を緩和するための工夫がなされている。</li> <li>(5) 道徳ノート（別冊）を併用することで生徒の言語活動が充実し、自分の考えを記録し積み上げていくことで成長が実感できると共に、教師が生徒の学習状況や道徳性に関わる成長の様子を把握できるよう工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ」と「よりよい社会」について重点的かつ継続的に学習できるように、直接的・間接的な教材とコラムを連続して配置し、知識の深化とスキルの習得を目指せるような工夫がなされている。</li> <li>・全教材で、①「気付く」→②「考える・議論する・深める」→③「見つめる・生かす」の3ステップで1時間の見通しをもって学べるような工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	Gakken（新版 中学生の道徳 明日への扉）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9ページの「考えを深める4つのステップ」で多様な学び方や生徒自身が自己を見つけられるように学び方が示されている。</li> <li>・ 情報モラルやキャリア教育、多様性、いじめ問題などの現代的な課題に関わる教材があり、多面的・多角的に考える手助けになっている。</li> <li>・ 昔の偉人やスポーツ選手、芸能人、伝統芸能に精通する人など様々な人々の生き方が取り上げられ、自分の生き方について生徒が考えを深められるような工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各学年の最初のページで「よりよく生きる22の鍵」として内容項目を扱い、特に「生命の尊さ」については各学年で3時間配置されている。</li> <li>(2) 教材名の前に主題名を記載しないことで、生徒が題材に対して多様な考えをもてるような工夫がなされている。</li> <li>(3) 内容の最後に「深めよう」という特設ページが設けられている題材では、グループワークやロールプレイによって対話を促し、主体的・対話的に学習を進められるよう配慮されている。</li> <li>(4) 内容の最後に「クローズアップ」という特設ページが設けられている題材では、題材の内容に関する情報が載っており生徒が多面的・多角的に学習することができる工夫がなされている。</li> <li>(5) 題材の中にメモ欄が設けられており、生徒がポイントを書き込みやすい工夫がなされている。</li> <li>(6) AB判の紙面でイラストや写真を大きく配置し、すべての生徒が学習しやすい工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 行事や季節に合わせたストーリー性のある教材については、生徒の発達段階に応じた2つの発問や問いかけが適切に配置されている。</li> <li>(2) スマートフォンやSNSの扱いについて考える題材が特設ページ「深めよう」で各学年に配置され、生徒の学びを深め高める工夫がなされている。</li> <li>(3) SDGs、多様性、キャリア教育について、異なる内容項目の題材を連続して行う「ユニット教材」が各学年設定され、生徒の学びが深まる工夫がなされている。</li> <li>(4) 題材の登場人物や題材で出てくる偉人についての情報が写真やイラスト付きで解説され、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</li> <li>(5) 各学年の最後のページに「学びの記録」や「学びのメモ」が付いており、生徒自身が学びを振り返ることや学びを積み重ねることを助け、自分の成長を感じ取れるような工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の多様な考えが出てくるように、主題名を教材の前には書かずに巻末に配置された「キーフレーズ」でまとめ、生徒の問題意識を高める工夫がなされている。</li> <li>・ 「いのち」を最重要テーマに据え、「生命の尊さ」について深く考えるよう各学年3本の題材を扱うことができるよう教材が配置されている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	あかつき教育図書（中学生の道徳）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動がイメージできる発問として「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」「考えを深める」と発問ごとに示す工夫がなされている。</li> <li>・様々な教材を用意していることで、生徒に新鮮な驚きと感動を与え、多面的・多角的に捉えることができるよう配慮がなされている。</li> <li>・「自主・自律」「思いやり・感謝」「生命の尊重」「よりよく生きる喜び」を重点項目とし、特に「生命尊重といじめ防止」は最重要課題として扱っている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) いろいろなテーマから、発達段階や学校行事に応じて教材を選択できるようになっている。</li> <li>(2) 教科書での学びに入りやすくするために、多くの教材でデジタルコンテンツを活用できるような工夫がなされている。</li> <li>(3) 教材の終末で「自分との対話」が配置されており、自分自身や道徳的価値について問い直す工夫がなされている。</li> <li>(4) 各学年3つの教材に「マイ・プラス」を設置し、問題解決的な学習、体験的な学習ができる工夫がなされている。</li> <li>(5) 文字は視認性を高くしたユニバーサルデザインフォントを使用し、判型は学生かばんの重さに配慮したB5判になっている。</li> <li>(6) 色覚の違いにより学習に支障が出ないように、色の識別のみによらず、文字情報やマーク、デザインの違いで情報を読み取れるような工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校行事や部活動の大会だけでなく、他の教科や教育活動、年中行事との関連を考慮して教材を配列しているので、それぞれの内容項目を生徒の発達段階に応じて学習することができる工夫がなされている。</li> <li>(2) 「Thinking」というコラムページを各学年で10回程度、教材のあとや巻末付録に配置することで、感動や思考を促し、教材での学びをさらに広げたり深めたりする工夫がなされている。</li> <li>(3) 様々な現代的な課題を取り扱い、テーマによって連続的に学習できるようにユニット化してあり、そのユニットを3年間見通した展開で学習し、学びを広げ深める構造になっている。</li> <li>(4) スラックス姿等で女性や性別を規定しない生徒の挿絵を提示したり、登場する男女バランスを考慮したりすることで、多様な性の実態や男女に関係する人権上の工夫がなされている。</li> <li>(5) 巻末に学期ごと及び1年間の学習の振り返りができるワークシート「学習の記録」が用意しており、生徒は自身の成長に気付くことができる工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・35本の全ての教材で道徳教育と道徳科の充実のために、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点のどの視点を学習するのか示されている。</li> <li>・現代的な課題についての複数の教材を扱い、各校で重点的に学習できるよう工夫がなされている。</li> </ul>

調査研究結果報告書（選定理由書）

発行者名 採択基準	日本教科書（生き方から学ぶ）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教材で、発問に「考えよう」「深めよう」が設定され、自他の考え方を共有し、自らのこれからの在り方を考えることができる工夫がなされている。</li> <li>・巻末の「ウェルビーイングカード」の活用により、自他の考えを理解したり尊重したりすることで、人としての基盤となる豊かな情操と道徳心を培い、協働して社会を創る力を身につける工夫がなされている。</li> </ul>
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性  〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 道徳の内容項目「4つの視点」をもとに、発達段階別に思考のテーマを設け、「よりよく生きようとする事」についての見方・考え方を深められるような工夫がなされている。</li> <li>(2) デジタルコンテンツが取り入れられており、題材の課題を焦点化したり、生徒の興味・関心を引き出したりする工夫がなされている。</li> <li>(3) 中学生の言葉の理解度に合わせて構成された巻末のカードを活用することで、自他が大切にしている価値を理解しやすい配慮がなされている。</li> <li>(4) 現代的な課題の他に「哲学」「キャリア」「先人の知恵」等の教材を配置することで、多面的・多角的に考え、話し合えるような工夫がなされている。</li> <li>(5) 資料下段には難しい言葉の説明や補足資料を配置し、内容理解への配慮がなされている。</li> <li>(6) 読み物教材以外にも、漫画、ポスター、他人や偉人の考え等、生徒が多様な課題を捉え、様々な考えを引き出しやすいような工夫がなされている。</li> </ol>
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い  〔「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 3年間を通して共通の登場人物を描く教材が掲載され、発達段階に応じた内容を扱うことで、共感や自己との対比を捉えたり、自分を登場人物に置き換えて考えたりしやすい工夫がなされている。</li> <li>(2) 学習指導要領の内容項目順に教材が配置されており、啓発週間や学校行事、生徒の発達段階に合わせることで、生徒が興味・関心をもって読みだり考えたりする配慮がなされている。</li> <li>(3) 「多様性」や「情報モラル」「生命尊重」「キャリア」、「SDGs」等を扱った教材が発達段階に応じて配置されており、それぞれの課題に関して多角的・多面的に考えることができるような工夫がなされている。</li> <li>(4) 教材の内容や目的に応じて、デジタルコンテンツを活用して視覚から考えることができる教材や、必要に応じて動画を視聴してから導入するような工夫がなされている。</li> <li>(5) 「ウェルビーイングカード」の活用により、自他が大切にしている価値感を可視化することができ、今まで気づけなかった価値観を互いに尊重しあい、多面的・多角的な見方や考え方ができるような工夫がなされている。</li> </ol>
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウェルビーイングカード」を活用することで、それぞれの生徒が「よりよくあるための視点」を設定し、他者の価値観を尊重しながら社会を創る力を身につけるための工夫がなされている。</li> <li>・読むことだけにこだわらず、動画や漫画、写真やグラフ等、デジタルコンテンツを取り入れ、生徒が学びやすい工夫がなされている。</li> </ul>